

# 日本消防



● 第21回全国女性消防操法大会運営委員会を開催



5  
2013

□ 絵	平成25年春の叙勲伝達式（消防関係）	H25.5.10（金）	於	ニッショーホール
	平成25年春の褒章伝達式（消防関係）	H25.5.16（木）	於	スクワール麹町
	平成25年4月13日（土）淡路島付近を震源とする地震			

巻頭言「消防団員の確保・住警器の設置促進」……	公益財団法人 沖縄県消防協会 会長 松田 進	1
日消の動き「消防団の装備の改善充実」	（財）日本消防協会 会長 秋本 敏文	3
第21回全国女性消防操法大会運営委員会を開催	（財）日本消防協会	4
特別表彰「まとい」を受章して「安心・安全なまちづくり」をめざして		
……	山形県舟形町消防団 団長 加藤 憲彦	6
東西南北（大阪府）「緑と歴史のまち・四條畷」を守る！	四條畷市消防団 団長 大角 末廣	8
東西南北（山梨県）「南アルプス市消防団の取り組みについて」		
……	南アルプス市消防団 団長 樋川 良雄	10
東西南北（石川県）「愛される消防団を目指すために日々精進を」…穴水町消防団	団長 吉村 多作	12
シンフォニー（山口県）「第20回全国女性消防操法大会に出場して」		
……	下関市消防団 団員 木原 そよか	14
平成25年春の叙勲伝達式・褒章伝達式	総務省消防庁	16
6月2日～8日は「危険物安全週間」	総務省 消防庁 危険物保安室	32
初の女性消防団員が誕生	大阪府茨木市消防団	33
モデル少年消防クラブの活動事例		34
平成25年度 消防個人年金海外視察の御案内		
雄大な自然美と美しい都市にふれる旅 イタリア・シチリア島を巡る8日間ツアー		40
消防団120年特別企画「大日本消防」表紙絵	（財）日本消防協会	42
うちの名物団員		43
消防団の広場（群馬県）「広報イベントで消防団をPR」	高崎市消防団 団長 田中 宏	45
消防団の広場（秋田県）「まとい振り」を通じた防災意識の高揚について		
……	大館市消防団大館第17分団 副分団長 羽柴 睦廣	46

編集後記

## 表紙写真説明

「のぎきまいり」で有名な野崎観音

野崎観音（正式名称：福聚山慈眼寺）は、今から1300年ほど前に、秘仏の「十一面観音像」が安置されたのがはじまりです。この観音像の開帳から始まった「のぎきまいり」には、江戸時代から多くの人が参詣し、現在も5月の1～8日の期間は全国から10万人以上の人々が詰めかけ大いに賑わっています。その昔、東海林太郎さんの「野崎小唄」にも歌われているように、舟で参詣されることが多かったのですが、舟で行く参詣者と陸に行く参詣者が互いにのしり合って、それに勝てば1年の幸を得るといわれました。（大阪府）

# 平成25年春の叙勲伝達式(消防関係)

平成25年5月10日(金) 於 ニッショーホール



# 平成25年春の褒章伝達式(消防関係)

平成25年5月16日(木) 於 スクワール麹町



# 平成25年4月13日(土) 淡路島付近を震源とする地震

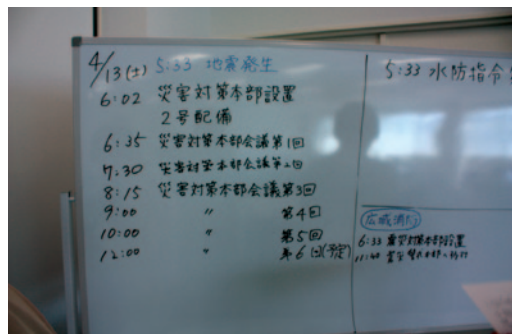
写真提供 防災アドバイザー 森田 武



被災地状況 (淡路市塩田新島)



被災地状況 (淡路市塩尾)



淡路市災害対策本部会議

## 「消防団員の確保・住警器の設置促進」

公益財団法人 沖縄県消防協会 会長 松田 進



沖縄県の消防団員の条例定数は、30団本部1,797人に対して、実員1,605人（内女性消防団員90人）で、充足率は89パーセントとなっています。しかし、その実数は、全国各都道府県の消防団員実数に比較して極めて低い状況にあります。

我が国においては、戦後消防団員数200万人を擁していたとよく耳にしますが、消防団員がサラリーマン化によって年々減少の一途をたどり、現状は100万人を切り、約90万人に減少しています。

本県でも、昭和49年の2,244人をピークに徐々に減少傾向を示し、現在の1,605人に至っております。特に本県における消防団員の少ない要因を考えてみると、原因は多々あると思いますが、その一つは消防の歴史的背景が浅いということが言えると思います。

つまり、本県の場合は、廃藩置県後に他府県からやってきた寄留商人達を中心となって那覇市消防団を結成しているのです。120年の歴史しかありません。これは、那覇市だけのことであって、他の市町村の消防団は、ほとんど昭和の時代になってからの設置であります。

それに比べ、他府県においては、特に日本の主要都市東京（江戸）では、1718年（享保3年）8代将軍徳川吉宗が江戸奉行「大岡忠相」に命じて設置した「町火消し」から約300年の歴史があります。この歴史の差が沖縄県民の消防に対する意識にも現れていると感じます。

その二つは、自然災害等で、豪雨による山崩れや河川の氾濫も少なく、土も粘り強く自然災害による被害が比較的少ない現状にあり、一方、台風銀座といわれているように、毎年台風の発生が多いため、台風に対する事前対策がしっかりとられ、風速40～50メートルでも建物はびくともしません。そのような

状況から、自然災害において消防団員の災害出動の場が比較的少ないことも、消防団員が増えない要因の一つかと思っております。

それと同時に、常備消防のある市町村の消防団のほとんどが、消防機動力（消防ポンプ自動車等）の装備を保持していません。従って、災害現場では、常備消防の補完的役割を担うことが主任務となっているため、これも消防団員を志すには活動の場が弱いということになっているかもしれません（管轄面積の広い名護市消防団や常備消防のない八重山の竹富町などの離島では、消防団が消防ポンプ車等を保持し、消防活動に従事している）。

しかしながら、近時発生した、阪神淡路大震災や、平成23年3月に発生した東日本大震災では、災害発生と同時に多くの消防団員が出動し、人海戦術で地域住民の避難誘導をはじめ、救出救助活動に尽力した実績は高く評価されました。

従いまして、消防団員の増員確保には、さらに重点的に取り組まなければならないと思います。

本県は、自然災害の少ない地方ではありますが、それでも今から240年前の1771年の明和の時代に、石垣島と宮古島の近海で震度7強の地震が発生し、それによる大津波により石垣島と宮古島合わせて9,000人余の人命が失われた歴史があります。

自然災害発生時には、どうしても消防団員の活動が要求されることから、消防団員の増員確保には、機会ある毎に関係機関へ要望していく考えであります。

それから、住警器の設置普及促進の状況がありますが、ご案内のとおり、住警器の設置義務化は、市町村条例によって、平成23年5月30日までの期限となっていました。

消防庁の調査によると、平成23年6月現在、全国の77パーセントの設置率に対し、本県の場合60.1パーセントで、普及促進の遅れを感じます。これも消防団員の人海戦術で各家庭（消防団の管轄地域）を訪問し、消防法第4条の2を活用して「防火診断」の意味をかねて、未設置のところは設置の必要性を訴えております。

また、一般社団法人沖縄県消防設備協会では、公益事業の一環として、災害弱者に対して、年次計画で住警器の無料配布、取り付けを実施していることは、普及促進に大きく貢献し頼もしい限りであります。

他府県には事例が少ない消防団の活動として、戦争で使用された不発弾の処理作業があります。

本県は今時大戦で、我が国で唯一地上戦を体験しました。戦争によって県民19万人余が命を失い、地上ではまさしく鉄の暴風が吹き荒れました。

米軍により沖縄戦で投下された弾薬は、約20万トンとされ、その5パーセントにあたる1万トンが不発弾とされています。戦後、1万トンの中、7千トンが米軍と自衛隊によって処理され、残り3千トンが地下に埋没されていて、開発行為や宅地造成工事等で発見されます。那覇市では、排水溝の工事中不発弾が爆発し、5人の死者と数人の負傷者を出した事故が発生したこともありました。

不発弾が発見された場合、不発弾の大きさによって避難警戒区域を設定して、消防団員等が避難誘導の業務を担い、地域住民を安全な場所へ避難完了を確認の上自衛隊の不発弾処理隊によって処理されます。

ところで、本県は、祖国復帰してから41年目を迎えましたが、節目の40年目にあたる昨年の5月15日、沖縄コンベンションホールにおいて、国と県共催による祝賀式典が三権の長内閣総理大臣を筆頭に多くの国会議員、関係者のご臨席のもと、盛大に祝賀行事が挙行されました。顧みれば、戦後講和条約発行情とともに、沖縄は、日本から切り離され、アメリカの統治下に置かれ、20年余の長きにわたり過重な基地負担を強いられ、不幸な時代がありました。祖国復帰願望の強い県民世論の高まりで、昭和42年4月、当時の佐藤総理大

臣とアメリカのニクソン大統領との間で、沖縄の返還交渉が始まりました。昭和42年の4月は、小生はたまたま日本政府の援助で消防大学校第14期本科に入校中でありました。入校間もないころ、社会学の時間で、教壇に立ったある大学の教授は、テーブルに置かれた名簿を見て、開口一番「沖縄からも来ているのか、沖縄の学生には申し訳ないが沖縄は帰らないよ。」と言いました。なぜか、「過去の歴史の中で、平和交渉で領土が返ったためしはない。」と言い切ったのでした。

その時私は、「ああ 沖縄は祖国復帰することはできないのか」と愕然としました。

しかしながら、佐藤総理の頑張りで、これまでの常識を覆す見事な働きで、返還交渉が始まって5年後の昭和47年5月15日、待望の本土復帰が実現したのであります。

佐藤総理大臣が、沖縄那覇空港に降り立った時の第一声は「沖縄が日本に帰ってこない限り、日本の戦後は終わらない。」という名セリフを残しております。非常に印象に残る言葉として今も脳裏に深くやきついております。

復帰実現後、県民はあらゆる分野での遅れを取り戻すため、非常な努力を続け、消防行政においても、本土との一体化、本土並みの消防行政を推進するため、頑張ってきました。

一方、日本政府としても数々の振興策を導入しました。

ちなみに、復帰記念事業として、沖縄国際海洋博覧会の開催、全国一巡となった沖縄海邦国体、初めての地方開催となった先進国首脳会議「九州・沖縄サミット」等によって、遅れていたあらゆる分野における発展強化が図られつつあることは、誠に喜ばしい限りであります。特に、観光立県をめざしている本県にとっては、観光客の誘致に大きな効果をもたらしていると思います。

本県は現在、年間500万人の観光客が訪れておりますが、県は将来1,000万人を目標に努力しております。

今後は、県民をはじめ、観光客の安全、安心を確保することが我等消防人に課せられた最大の使命と考え、消防団全体の英知と使命感をもって大同団結して消防の使命達成に邁進していかねばと思う昨今であります。

# 消防団の装備の改善充実

(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

消防団の装備の改善については、全国の消防団の皆さんご苦心なさっていることと思います。東日本大震災ではあらためて装備の改善がこれからの重要課題のひとつであることが明らかになりました。そのため、翌年度の国の予算編成日程を考慮して、平成24年5月、日本消防協会では、装備の改善についての国の財政措置を要望しました。

そして、平成24年8月、「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会」という国の検討会から報告がなされ、その中で、消防団の装備の改善が強く指摘されました。具体的には、安全靴などの基本装備、無線等双方向の通信機器、活動の長期化に備える食糧、燃料の用意などがあげられ、これらの改善充実のため、「国として、装備の基準の見直しや必要な財政措置等を検討すべきである」と述べられています。

これらは、日本消防協会が申しあげてきたことであり、まことに心強いものでありました。そこで、平成25年度の措置ですが、特に、今回はその元利償還が地方交付税で措置される地方債の充実が注目されます。これは、東日本大震災を教訓として、津波災害等の大規模災害時において住民の安全に直結する消防団の強化に係るものを対象とするとされており、具体的には、「消防団車両の増強・初期消火資機材の増強や、救助活動等を行うために必要な車両の整備、避難誘導を行う消防団の情報伝達手段の整備、消防団拠点施設の増強などの事業」を対象とするとされています。そして、このような事業に対して地方債を100%充当し、その元利償還の70%は地方交付税で措置するとされています。この70%というのはこれまでにない高い比率でありまして、国が地方交付税で70%の財源保障をするという手厚い措置です。

さて、問題はこのような財政措置をどう活用するかです。やりたいと考えている具体的な事業がこの対象になり得るかどうか気がなることもあるかもしれませんが、必要なものは必要としてキチンと要望しなければなりません。また、地方交付税で措置されるといっても財政状況は極めて厳しく、この地方債は活用できないという財政当局の話もあるかもしれませんが、住民の安全をより確かなものにするためには是非必要ということを市町村長さんなどに粘り強くお話ししなければならないでしょう。

平成23年度の国の補正予算で、消防団の安全装備のための国庫補助が計上されましたが、要望が少なく、半分近くの前算が残りました。将来の国の財政措置確保のためにも、折角の財政措置は十分活用して頂きたいと思います。

# 第21回全国女性消防操法大会 運営委員会を開催

(財)日本消防協会

平成25年4月12日（金）日本消防会館において、第21回全国女性消防操法大会運営委員会が開催され、大会の「基本方針」について協議した結果、次のとおり決定されました。

## 第21回全国女性消防操法大会基本方針

### 1 目的

女性の消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的とする。

### 2 主催

消防庁、財団法人日本消防協会

### 3 協力

神奈川県

横浜市

財団法人 神奈川県消防協会

横浜市消防局

### 4 日時

平成25年10月17日（土）午前9時30分（雨天決行）

### 5 会場

横浜市消防訓練センター

神奈川県横浜市戸塚区深谷町777番地

### 6 大会運営委員等

第21回全国女性消防操法大会運営委員名簿のとおり

### 7 出場隊

- (1) 都道府県消防協会が推薦する女性の消防隊（消防団員を含む）とする。
- (2) 1隊7名とする。

### 8 消防操法

第20回全国女性消防操法大会操法実施要領に準じ、次により実施する。

- (1) 軽可搬ポンプ操法とする。

- (2) 5人操法とする。

- (3) 手びろめによる二重巻ホース1線延長とする。（ホース3本）

- (4) 標的を使用し放水を行う。

- (5) 収納は省略する。

### 9 使用機械器具

D - I 級軽可搬ポンプ一式（日本消防協会仕様の二輪台車付）

### 10 審査

- (1) 審査員は、財団法人日本消防協会において指定する。

- (2) 審査基準は、財団法人日本消防協会において定める。

- (3) 審査内容については非公開とする。

- (4) 審査に対する苦情等は、一切受理しないこととする。

- (5) 大会日あるいは大会途中において、降雨等があっても審査には考慮しないものとする。

- (6) 各隊の操法タイム及び総得点を公表する。

### 11 表彰

- (1) 12位までを表彰する。

- (2) 優勝 1隊（内閣総理大臣賞・日本消防協会会長賞）

- (3) 準優勝 2隊（消防庁長官賞・日本消防協会会長賞）

- (4) 優秀賞 3隊（日本消防協会会長賞）

- (5) 優良賞 6隊（日本消防協会会長賞）

- (6) 優秀選手賞 10名（日本消防協会会長賞）

### 12 その他

その他必要な事項は、大会運営委員会で定め別途通知する。



## 第21回全国女性消防操法大会大会運営委員名簿

平成25年4月1日現在

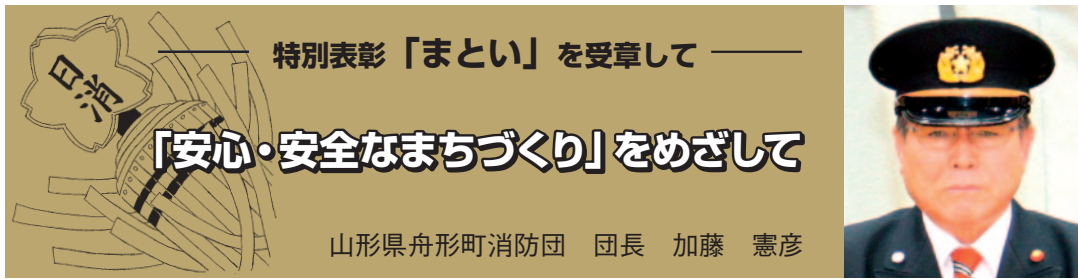
大会運営委員長	秋本 敏文	日本消防協会会長
大会運営副委員長	有岡 宏	総務省消防庁消防大学校校長
〃	川手 晃	日本消防協会常務理事
運営委員	室田 哲男	総務省消防庁総務課長
〃	赤松 俊彦	総務省消防庁防災課長
〃	門倉 徹	総務省消防庁消防大学校副校長
〃	荒井 守	横浜市消防局長
〃	大島 英治	神奈川県消防協会会長
〃	木沢 トモ子	栃木県婦人（女性）防火クラブ連合会会長
〃	山口 洋枝	島根県女性防火クラブ連絡協議会会長
〃	比嘉 トモエ	沖縄県女性防火クラブ連絡協議会会長



【会議風景】

## 第21回全国女性消防操法大会 出場順

出場順	第1コース（本部席側）	第2コース（応援席側）
1	広島県	愛知県
2	福井県	沖縄県
3	滋賀県	東京都
4	香川県	茨城県
5	山口県	山形県
6	新潟県	岐阜県
7	奈良県	富山県
8	鹿児島県	千葉県
9	愛媛県	熊本県
10	神奈川県	秋田県
11	京都府	長野県
12	石川県	福岡県
13	和歌山県	埼玉県
14	大阪府	群馬県
15	福島県	徳島県
16	鳥取県	三重県
17	大分県	栃木県
18	宮崎県	山梨県
19	静岡県	佐賀県
20	長崎県	岩手県
21	岡山県	北海道
22	青森県	北根県
23	宮城県	兵庫
24	高知県	



### はじめに

平成25年2月26日に日本消防会館（ニッショーホール）において「第65回日本消防協会定例表彰式」が盛大に挙行され、消防団受章の最高榮譽である特別表彰「まとい」を日本消防協会秋本会長より拝受致しました。

全国2,300余りの消防団の中から、このような榮譽ある「まとい」を受章できましたことは、我々消防団はもとより、諸先輩方や消防関係者の方々、さらに舟形町民にとりましてもこの上ない榮譽であり喜びであります。

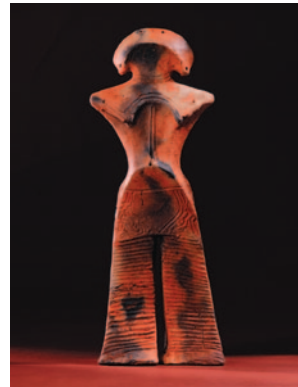
これもひとえに、消防防災活動に貢献してこられた諸先輩方の絶え間ない努力、さらに日本消防協会、山形県消防協会の皆様の温かいご支援の賜と深く感謝申し上げます。

### 舟形町の紹介

舟形町は山形県の東北部、最上郡の南端に位置し、人口約6,000人、面積119.03km<sup>2</sup>の奥羽山脈、出羽丘陵の山麓に囲まれ町土の7割を山林で占めています。

基幹産業は農業ですが、近年は稲作依存経営から収益性の高い複合経営へと転換をめざし、様々な付加価値の高い農産物の生産を展開しております。

また、舟形町は「若鮎と古代ロマンの里」を全国に発信、アユ釣りのメッカとして有名で、さらに高さ45cmの八頭身美人土偶「縄文の女神」が昨年国宝に指定され、地域興しの一翼を担っています。



国宝縄文の女神

### 舟形町消防団の沿革

舟形町消防団は、団本部と町内各地域の7分団（条例定数500名）で構成され、装備として本部車、指令車、電源車、多機能車、小型動力ポンプ積載車24台、小型動力ポンプ35台となっております。

また、平成11年には女性消防団制度を発足し、女性ならではのきめ細かな消防防災活動を展開しております。

しかし、当町も例外なく少子高齢化が到来し、団員の確保を今後の大きな課題としております。



消防演習一斉放水

## 舟形町消防団の活動

4月、新年度に入ると春季消防演習に備えて、早速幹部・新入団員・女性消防団員の訓練が始まります。同時に、春の火災予防運動（山形県内一斉に4月9日～22日）の啓蒙により防火意識を高め、5月の春季消防演習により1年間の消防団活動がスタートします。

田植え等農繁期が終わると、6月に実施される操法大会の練習が始まります。さらに、翌月には火災や大雨洪水に備え夏季非常招集訓練が行われます。

秋には、町と合同で総合防災訓練が実施され、大規模地震を想定した非常招集訓練、避難誘導訓練、防御訓練、初期消火訓練等が地域住民の方々の協力を得て行われます。

師走に入り、全ポンプの性能検査を実施して冬季火災に備えます。そして年明けと共に、1年の無事故・無火災を祈願して安全祈願祭・出初式が行われます。



操法大会



出初め式一斉放水



水防訓練



初期消火訓練

## おわりに

舟形町は、幸い東日本大震災やここ数年でも大きな自然災害は発生しておりませんが、「災害は忘れた頃にやってくる」を肝に銘じて、日々訓練に励み、「安心安全なまちづくり」を心掛けております。

この度の受章を契機として、一層精進を重ね地域の期待に添えていく所存です。

最後に、受章にあたり特段のご高配を賜りました日本消防協会、山形県消防協会をはじめ、消防関係各機関の皆様へ深く感謝申し上げます。受章のご挨拶とさせていただきます。



## 「緑と歴史のまち・四條畷」 を守る!



四條畷市消防団 団長 大角 末廣

### 1 四條畷市の紹介

しじょうなわて

四條畷市は、大阪市街から約15km北東部に位置し、面積は18.74km<sup>2</sup>、人口は約57,000人で、市域の東側に連なる北生駒山地は「金剛生駒紀泉国定公園」に指定されており、山中にある室池周辺には府民の森「緑の文化園むろ池園地」が整備され、週末にはハイキングを楽しむ人々で溢れます。

また、本市には南北朝時代に四條畷の合戦で命を絶たれた楠木正行(小楠公)ゆかりの「四條畷神社」をはじめ、戦国時代のキリシタン「田原レイマン墓碑」や古墳時代の「馬文化伝来の地」とされる遺跡に代表される歴史的遺産などが数多く



四條畷神社

残されており、本市にゆかりのある桂南光さん(落語家)や山口智充さん(タレント、愛称“ぐっさん”)、角淳一さん(フリーアナウンサー)、青木豊彦さん(人工衛星「まいど1号」の打上げ成功者)、谷口智則さん(絵本作家)を観光大使に招き、観光可視化戦略を推し進めています。

### 2 四條畷市消防団の概要

四條畷市消防団は、昭和22年の町制施行により警防団が改組され、前身である四條畷町消防団として発足しました。

現在は、団本部、4方面隊、11分団、185名(平成25年4月1日現在、条例定数185名)の団員で構成され、消防ポンプ自



地域防災訓練での放水訓練



水防訓練での土のう作成

動車2台、小型動力ポンプ積載車10台を配備し、日々、地域防災の要として活動しています。

また、平成元年には消防団として最高の栄誉であります日本消防協会特別表彰「まとい」を受章致しました。

### 3 四條畷市消防団の活動

本市消防団は、火災をはじめ各種災害に対応するために、林野火災を想定した「遠距離中継送水訓練」や河川の氾濫を想定した「水防訓練」をはじめ、新入団員及び幹部団員を対象とした「規律訓練」、市域で実施する大規模地震を想定した「地域防災訓練」などの訓練のほか、美しい山々からの山火事を予防するために実施している「山林パトロール」や普通救命講習会、火災予防運動街頭防火広報、市民まつりの救護所などの活動を実施しています。

また各分団では、管轄地区の巡回や防災訓練の指導、消火栓及び消防機械器具の点検など、地域に根ざした活動を行っています。

さらに平成19年には女性団員(現在5名)が誕生し、女性の持つソフトな面を活かした活動を行うため応急手当普及員の資格を取得し、各地区で開催される救命講習会やイベントに参加してAEDの取り扱いや心肺蘇生法の普及に努めています。

### 4 おわりに

東日本大震災から2年が過ぎましたが、この未曾有の大災害から私たちは多くのことを学び、今後の活動に活かしていかなければならないと考えています。

また、地域住民の防災に対する関心は益々高まりを見せており、特に、東海・東南海・南海地震などの大規模地震の発生が懸念されていることから、消防団に対する市民の期待も非常に大きなものとなっております。

本市消防団としまでも、地域住民の信頼と期待に添えるよう団員の資質向上をはじめ、地域防災のリーダーとして自治会や自主防災組織との連携を強化し、人と人との繋がりを大切に、私たちの「緑と歴史のまち・四條畷」を守るため、今後さらに精励してまいります。



消防フェアの応急手当体験ブース



# 「南アルプス市消防団の 取り組みについて」



南アルプス市消防団 団長 樋川 良雄

## 1 南アルプス市の概要

南アルプス市は、それまでの八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の6つの町村が合併し平成15年4月1日に誕生した市で、総面積は264.07km<sup>2</sup>に及び、世帯数は25,953戸、人口は73,898人となっています。（市政要覧より）

本市は甲府盆地の西部に位置し、南に霊峰富士を仰ぎ、北には八ヶ岳を望む景観に恵まれ、赤石山系（南アルプス山系）東端の巨摩山地に端を發する御勅使川によって形作られた国内最大級の扇状地とその上流部の南アルプス山系からなる地域で、地理的、地形的に一つのまとまりを形成しています。

その水はけの良い土壤を生かして桃やサクランボ、スモモやブドウなどの果樹園を形成し、さらに、扇端部分の肥えた土地では、米やトマト栽培なども盛んになっています。土地利用の状況は農用地が約11%、森林原野が約73%を占めており、地域の西部を中心に緑豊かな自然に囲まれ、桃の花が咲く頃は桃源

郷と呼ぶにふさわしい景観となります。

## 2 消防団の組織

南アルプス市消防団は、旧町村の消防団組織を維持しながら統合し、現在の消防団が発足されました。

現在は6分団46部、団員735人（定数800人）で活動を行い、本団は団長、副団長で構成され、分団は分団長、副分団長、部長、団員から構成されています。

ポンプ車38台を有し、地域住民の生命及び財産を守るために懸命に活動しています。

## 3 消防団員の装備と活動について

装備等につきましては、難燃性の活動服を支給しており、常備消防が活用している耐火コートと作業用グローブを支給しています。

活動状況は常備消防と常に連携を取りながら防災広報活動や火災の際のポンプ車操法の習得、さらに林野火災を想定した防災ヘリとの連携訓練などを実施しており、この他地域



南アルプス市の桃の花と富士山



県消防防災航空隊との合同による山林火災訓練



市消防団による防火パレード



市消防団総合演習

に密着した消防団として地域行事や防災訓練など地域活動にも積極的に参加しています。

#### 4 消防団の活性化対策

昼夜間を問わず、すべての災害、訓練に参加することを基本に必要な団員を確保することは全国の消防団の大きな課題になっています。本市消防団においては「自分たちの地域は自分たちで守る」、このことを基本に区長さん自治会長さんらが自ら先頭にたち地域の若者や自営業の人たちに声を掛けられ、地域全体で団員確保に取り組んでいただいております。

また、消防団員確保対策の一環として、地元商工会の協力を得て消防団員サポート事業を平成22年から実施しております。この事業は地域の飲食店や小売店を消防団員が使うと、その店独自の心のこもったサービスをしていただける事業で、『日本消防』の平成24年7月号にも掲載されております。



市消防団総合演習における女性消防団員の行進

さらに、消防団協力事業所表示制度も積極的に活用することにより、従業員が消防団活動を行う上で理解と協力をしてくださる事業所が増えてきており、本市全体で安心安全の街づくりのために取り組むことが地域の活性化及び消防団の活性化に繋がっていると思っております。

#### 5 女性消防団について

本市消防団では昨年新たに7名の女性消防団員さんに加入していただき、総員11名となりました。女性団員ならではのきめ細かさや、ソフトなイメージの女性団員はこれからも必要と考えており、増員していきたいと思っております。

#### 6 おわりに

東日本大震災において私たちの仲間である多くの消防団員の方々がお亡くなりになりました。心からお亡くなりになられた消防団員の方々のご冥福をお祈りいたします。

本市は大規模地震対策特別措置法（昭和53年12月）による「地震防災対策強化地域」として指定されており、「いつ起きても不思議でない」とされている東海地震や南海地震の発生が懸念されています。このため、本市消防団では日ごろの訓練の向上と、訓練等により災害発生時、ただちに対応できる体制を充実させ、南アルプス市7万人の安心安全に全力で取り組んで参ります。



## 「愛される消防団を目指す ために日々精進を」



穴水町消防団 団長 吉村 多作

### 1 穴水町の紹介

穴水町は、平成23年6月、世界農業遺産に認定された能登半島の中央部に位置し、七尾湾に面した海岸部の延長約60kmに及ぶ美しい景観のリアス式海岸は、天然の漁港としても利用されています。

その波穏やかな海岸沿いに象徴的な姿を見せるのは、穴水町の代名詞ともなっている「ボラ待ちやぐら」。ボラ漁の担い手が減ってからというもの、その姿は観光用として残るのみとなっていました。町の伝統・文化、そして里山里海の景観を守るべく、平成24年、再び、やぐらの組み立てとボラ漁の復活に乗り出しました。

古くから息づく伝統・文化の継承の一方で、新たな観光資源も定着しつつあります。「能登ワイン」は、能登空港開港を見据え動き出した地域振興策の一つですが、その業績はみるみる頭角を現し、穴水を代表する特産品となりました。まいもん（能登の方言：おいしいもの）の里穴水に代表される冬の味覚“牡蠣”の殻をぶどう畑に活用し、ミネラル豊富な土壌での良質なぶどう作りに努めています。加熱処理をせず、熟



能登ワイン

成させることで芳醇な味わいが増す本格的な生ワインは、穴水町の新たな息吹として着実にそのファンを増やしています。

### 2 穴水町消防団の歴史

穴水町消防団は昭和14年、前身である警防団から始まり消防団へと組織を改め、昭和30年、穴水町を穴水、志ヶ浦、河内、住吉、鹿波、甲、諸橋の7つに分けし、各区域に分団を配置し、穴水町全体を守っています。

現在、分団数は7分団、各分団に消防ポンプ自動車と小型動力ポンプを配備しており、団員167名にて活動を行っています。



### 3 穴水町消防団の活動

穴水町消防団の活動として、基本となる放水訓練や消防水利の把握はもちろんのこと、大雨による洪水や浸水、また土砂災害に対応するため、土嚢作りやロープワーク、水防マット工などの水防工法を学び、災害などで負傷した人や心肺停止による緊急を要する人に遭遇した場合、迅速に行動できるように、直接圧迫止血法やAEDを使用した心肺蘇生法などの救命講習を受講しています。実際、この救命講習を受講した団員が、勤務中に急に倒れ心肺停止となった同僚に心肺蘇生を実施し、救急隊が駆け付ける前に蘇生させた事があり、日ごろの活動が活かされています。

火災が発生した場合において、迅速かつ的確な行動を執り、円滑に消火活動が出来るよう、日々ポンプ車操法の訓練を実施していますが石川県消防操法大会において、数ある強豪との激戦の中でみごと準優勝という好成績を修めることができました。また、激甚なる被害をもたらした東日本大震



県消防操法大会

災においては、平成19年に発生し、多大な被害をもたらした能登半島地震と重なるものがあり、罹災された方々のために、ほんの少しでもいいから何か力になれる事はできないかと思い立ち、宮城県石巻市鮫浦を訪れ、日々の生活に欠かせない歩道を確保するため、堆積した土砂を撤去する作業や、津波の被害に遭われた民家から、家族と共に歩んできた様々な思い出がたくさん詰まっている大切な品物の搬出を行ってきました。

こうした事に団員自らが積極的に取り組むなど、団員一人ひとりが防災に対する自覚を持って活動しています。



土砂撤去作業

### 4 おわりに

近年、各地で地震や土砂災害など、多種多様な自然災害が発生しております。いつ何が起こっても不思議ではないこの時代に、各々が日々精進し、何事にも冷静沈着に対応できる強い消防団を築いていくことで、町民から頼りにされ、慕われ、そして愛される消防団になっていくと思います。



## シンフォニー（山口県）

# 「第20回全国女性消防操法大会に出場して」

下関市消防団 団員

木原 そよか

下関市は山口県の最西端かつ本州の最西端に位置し、関門トンネルや関門橋などで北九州と繋がっています。そのためガイドブックでは関門地域として北九州市と下関市はセットで出版されていることが多く、下関市は福岡県だと思っている方も多いのではないのでしょうか。下関市は歴史の舞台に多く登場し、源平合戦終焉の地であったり、高杉晋作による奇兵隊の功山寺決起が行われた所でもあります。また、休日になると水族館である海響館は家族連れで賑わいますし、テレビCMにも起用された角島大橋からの海の眺めは最高です。

私は幸運にも平成23年、横浜市で行われた第20回全国女性消防操法大会に2番員として出場しました。下関市消防局で嘱託職

員をしていたときに、消防局職員の方から「操法っていうのがあって、今年その全国大会に出場するんだけど、やってみないか？」と誘われたのがそのきっかけです。そのときは消防団に入っていないどころか、消防団がどういうものかも分かっていませんでした。もともと2番員をしていた方が、仕事の都合で全国大会に出場できなくなって、その欠員補充でした。そのため私以外の番員の方は全員経験者で、全国大会にも出場したこのとある心強いメンバーの中での参加となりました。

訓練は6月から週2回のペースで始まりました。メンバーの顔も分からず、グループに馴染めるのだろうかという不安もあったのですが、そんな悩みは一瞬で消えまし

た。みなさん気さくで優しく、すぐに私のことを受け入れて下さいました。私は全く基礎ができていなかったのですが、マンツーマンで訓練礼式から始まりました。最初はいつもハイヒールばかり履いていたため、後ろ重心がクセになっていて、ただ立っているだけでもフラフラ、回れ右をしてもフラフラと姿勢が全く安定しませんでした。今思えばあの短い期間で全国に通用する選手になれたことに驚きを覚えます。初めのう



市操法大会展示訓練

ちは何をやっているのか分からないし、思っているように体が動かさずに泣いてしまったこともあります。しかし訓練を重ねていくうちに、メンバーのみんなと全国大会で上位になるという一つの目標に向かって努力をしていくことに心地よい団結力を感じました。

そして、とうとう大会当日を迎えました。開会式前に各県毎に並んで待っていたのですが、どの県の選手も緊張していたように思います。そんな探り探りの空気の中、大阪のチームが一番初めに盛り上げてくれ、和やかな空気に変えてくれました。方言も違いますし各県の特色が出ていて、ああ全国大会なのだと思いました。当日は向かい風が強く、制限時間内に的を落とせず中途棄権となるチームが続出しました。「悔しい」という言葉では表せない感情があったと思います。

そんな状況を目の当たりにしながら、下関市の順番が回ってきました。緊張なのか、逆にリラックスしすぎたのかで、操法開始ラインに立ったとき体がフワフワしていました。どうしようどうしようと思っていたら、案の定、私は訓練中も何度かやってきたミスをしてしまいました。気が付くと、ホースを延長していたときの記憶がありません。良いタイムは出せませんでした。結果は7位優良賞で、目標だった10位以内をクリアすることができました。でも、あのミスがなかったらもっと上位に行けたのだと思うと申し訳なくて仕方がありません。

今の私の目標は、もっと操法をたくさんの人に知ってもらうことです。全国大会で上位だった熊本県では、操法人口が多く、県内での競争率が高いので、自然と切磋琢磨して強くなっているようです。現在、山口県大会では和木町と下関市の2チームし



第20回全国女性消防操法大会

か出場していません。いつかまた全国大会に出場することができれば、7位より上位の順位を獲得し、地方新聞に前より大きな記事を書いてもらいたいです。

第21回の全国女性操法大会には和木町が出場する予定です。山口県の代表として上位を目指して頑張ってきて欲しいです。そしてこれからも良きライバルとして、お互いに強くなっていければと思っています。

最後になりましたが、素敵な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。全国大会を経験して思うことは、たくさんの方々に支えられて獲得した順位だったということです。夜遅くまで行われる週2回の訓練に、どんなに仕事が忙しくても指導して下さった消防職員の方々や消防団員の方々のおかげです。重い資器材を運んで下さったり、訓練に必要な道具を作って下さったり、精神的に支えて励まして下さいました。大会前日には、消防局のみなさんから応援メッセージが書かれたカードを頂きました。一つ一つ読みながら、嬉しくて涙が止まりませんでした。今でも、全国大会の思い出とメッセージカードは大切な宝物です。これからも、たくさんの人たちとのつながりを大切にしながら消防団活動を続けていきたいと思っています。

# 平成25年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

## ◇ 春の叙勲（消防関係）

平成25年5月10日（金）、ニッショーホールにおいて、平成25年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝中綬章	1名
瑞宝小綬章	26名
旭日双光章	2名
瑞宝双光章	108名
瑞宝単光章	477名

## ◇ 春の褒章（消防関係）

平成25年5月16日（木）、スクワール麹町において、平成25年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに業界の発展に大き

く寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章	12名
黄綬褒章	7名
藍綬褒章	79名

## ◇ 第20回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成25年4月29日（月）、日比谷公会堂において、第20回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受賞された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した方々です。

瑞宝双光章	332名
瑞宝単光章	293名

# 平成25年春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	高 橋 正 之 (71)	瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合ニセコ消防団 分団長	浦 野 重 吉 (79)
瑞 双	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 団長	石 戸 谷 保 (70)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市南消防団 分団長	大 湊 敏 之 (84)
瑞 双	北 海 道	元 檜山広域行政組合 奥尻町消防団 団長	神 崎 通 (76)	瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合浦臼消防団 副団長	織 田 正 志 (72)
瑞 双	北 海 道	元 釧路市消防団 団長	三 宮 久 藏 (84)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合由 仁消防団 団長	小 山 内 正 憲 (73)
瑞 双	北 海 道	元 根室市消防団 団長	高 橋 貞 男 (71)	瑞 単	北 海 道	元 八雲町消防団 副団長	川 上 豊 (73)
瑞 双	北 海 道	元 函館市恵山消防団 団長	竹 内 力 雄 (77)	瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 分団長	久 保 弘 規 (73)
瑞 双	北 海 道	元 遠軽地区広域組合 上湧別町消防団 団長	中 川 哲 夫 (74)	瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合広尾町消防団 分団長	軍 司 勝 裕 (74)
瑞 双	北 海 道	元 網走地区消防組合 東藻琴消防団 団長	森 比 三 夫 (74)	瑞 単	北 海 道	元 西胆振消防組合伊 達消防団 副団長	小 出 理 吉 (78)
瑞 双	北 海 道	元 渡島西部広域事務 組合知内消防団 団長	吉 田 清 (85)	瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合富良野消防団 副分団長	小 薺 薫 (76)
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合北斗消防団 副団長	青 山 敏 郎 (71)	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 せたな町大成消防 団分団長	小 林 智 (70)
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合神恵内消防 団副団長	板 谷 崇 (80)	瑞 単	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻町消防団 分団長	小 柳 和 雄 (73)
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 副団長	伊 原 利 博 (74)	瑞 単	北 海 道	元 北十勝消防事務組 合上士幌消防団 副団長	金 野 清 美 (75)
瑞 単	北 海 道	元 室蘭市消防団 分団長	坂 本 孝 一 (74)	瑞 単	北 海 道	元 留辺蘂町消防団 分団長	面 部 一 男 (78)
瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	佐 々 木 康 一 (77)	瑞 単	北 海 道	元 恵庭市消防団 分団長	橋 本 忠 一 (77)
瑞 単	北 海 道	元 上川南部消防事務 組合中富良野消防 団分団長	白 戸 和 夫 (76)	瑞 単	北 海 道	元 八雲町消防団 分団長	長 谷 川 一 男 (75)
瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組合 浜中消防団 副団長	鈴 木 亨 (72)	瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合岩見沢消防 団副団長	秦 野 光 徳 (73)
瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合 日高消防団 分団長	関 本 英 敏 (75)	瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 静内消防団 分団長	原 た 草 (77)
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合古 平消防団 副団長	田 中 利 雄 (76)	瑞 単	北 海 道	元 白老町消防団 分団長	本 間 強 (72)
瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 分団長	田 中 義 忠 (74)	瑞 単	北 海 道	元 斜里地区消防組合 小清水消防団 副団長	前 橋 三 郎 (75)
瑞 単	北 海 道	元 上川南部消防事務 組合上富良野消防 団分団長	辻 昭 男 (76)	瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合忠類消防団 団長	松 田 元 宏 (72)
瑞 単	北 海 道	元 帯広市消防団 分団長	筒 井 昭 一 (82)	瑞 単	北 海 道	元 釧路西部消防組合 喜別消防団 副団長	村 田 駿 次 (81)
瑞 単	北 海 道	元 札幌市白石消防団 分団長	土 肥 守 一 郎 (84)	瑞 単	北 海 道	元 上川北部消防事務 組合下川消防団 団長	山 本 博 隆 (71)
瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 団分団長	中 川 博 靖 (71)	瑞 双	青 森 県	元 七戸町連合消防団 団長	附 田 儀 悦 (69)
瑞 単	北 海 道	元 紋別地区消防組合 紋別消防団 副団長	那 須 康 維 (70)	瑞 双	青 森 県	元 つがる市消防団 団長	横 山 勇 一 (72)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	青 森 県	元 倉石村消防団 分団長	あか しか かね まつ松 (74)	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	ふ じ けん じ 健 児 (70)
瑞 単	青 森 県	元 外ヶ浜町三艘消防 団 団長	い とう かつ しょう 明 (70)	瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 副団長	みや ほん かつ しょう 行 (70)
瑞 単	青 森 県	元 金木町消防団 分団長	いずみ や たが ぶ 男 (77)	瑞 単	青 森 県	元 市浦村消防団 分団長	みや ほん かつ しょう 夫 (75)
瑞 単	青 森 県	元 三沢市消防団 分団長	い ほん かつ しょう 勝 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 金ヶ崎町消防団 副団長	あい ざわ しょう 男 (71)
瑞 単	青 森 県	元 平川市平賀消防団 副団長	い さい しょう の しん 進 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 西根町消防団 分団長	い とう ちやう 一 (76)
瑞 単	青 森 県	元 下田町消防団 分団長	きた ほう せい 義 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 宮古市連合消防団 宮古消防団 分団長	おおく けん けん 研 司 (77)
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	く とう しょう 一 (76)	瑞 単	岩 手 県	元 種市町消防団 分団長	おお 谷 い ず 雄 (77)
瑞 単	青 森 県	元 三戸町消防団 副団長	さわ だ ぶん 也 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 水沢市消防団 副分団長	みやの しょう 明 (86)
瑞 単	青 森 県	元 大間町消防団 分団長	たけ しの たち 美 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 九戸村消防団 副団長	かぜ び しょう 三 郎 (75)
瑞 単	青 森 県	元 むつ市消防団 団 長	つば だ ち 十 司 (70)	瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 分団長	あき 池 たかし 卓 (74)
瑞 単	青 森 県	元 鱒ヶ沢町消防団 分団長	と う 沼 圭 一 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 副分団長	く とう き へい 兵 (76)
瑞 単	青 森 県	元 平内町消防団 副団長	はた 井 いさむ 勇 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 分団長	さ さ き 木 ひろし 宏 (75)

瑞 単	岩 手 県	元 種市町消防団 分団長	した みち かつ 雄 (82)	瑞 双	宮 城 県	元 仙台市秋保消防団 団 長	さ とう しょう 晴 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 奥州市前沢区消防 団 団長	すず ぎ 春 男 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 三本木町消防団 分団長	あい ざわ 和 男 (83)
瑞 単	岩 手 県	元 花泉町消防団 分団長	たか かし 清 男 (83)	瑞 単	宮 城 県	元 志津川町消防団 分団長	あ べ 一 朗 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 沢内村消防団 分団長	たか かし のぼる 昇 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 利府町消防団 分団長	あ べ 康 夫 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	たか かし 政 光 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 川崎町消防団 分団長	いし 井 湧 悦 (75)
瑞 単	岩 手 県	元 大東町消防団 副団長	ち ば 初 男 (81)	瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	いわ 岩 淵 敬 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 副分団長	の 野 崎 昭 敏 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 角田市消防団 分団長	ご 後 藤 良 藏 (82)
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	ふ じ 村 守 (79)	瑞 単	宮 城 県	元 色麻町消防団 分団長	こ 小 松 次 男 (84)
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 副分団長	ふ じ 元 康 雄 (82)	瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 分団長	さい 齋 藤 源 三 郎 (87)
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副分団長	ほ 細 畑 勉 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 牡鹿町消防団 副分団長	さい 齋 藤 嘉 孝 (80)
瑞 単	岩 手 県	元 大迫町消防団 分団長	やま ぐち せん 市 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 築館町消防団 分団長	さ 佐 藤 馨 (82)
瑞 単	岩 手 県	元 一戸町消防団 分団長	やま だ 達 也 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 白石市消防団 副団長	さ 佐 藤 義 宣 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	庄 子 市 雄 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 加美町消防団 副分団長	藤 原 今 右 衛 門 (78)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	庄 子 泰 次 (77)	瑞 単	宮 城 県	元 大河原町消防団 分団長	村 上 吉 雄 (80)
瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 分団長	菅 原 清 孝 (84)	瑞 単	宮 城 県	元 巨理町消防団 副団長	吉 田 清 一 (82)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市登米町消防団 団長	高 橋 勝 雄 (70)	瑞 双	秋 田 県	元 湯上市消防団 団長	菅 原 金 春 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市河北消防団 団長	高 橋 健 也 (70)	瑞 単	秋 田 県	元 仙北市田沢湖消防団 副団長	荒 木 田 芳 美 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 鳴子町消防団 分団長	高 橋 幸 一 (84)	瑞 単	秋 田 県	元 能代市連合消防団 能代消防団 分団長	大 槻 昭 一 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 名取市消防団 副団長	高 橋 清 太 郎 (72)	瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	小 山 田 俊 勝 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 花山村消防団 分団長	千 種 春 夫 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 鷹巣町消防団 副団長	小 松 秀 雄 (74)
瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町歌津消防団 副団長	千 葉 十 次 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 藤里町消防団 分団長	齋 藤 守 一 (74)
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	奈 良 坂 茂 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市増田消防団 団長	佐 々 木 宗 助 (69)
瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	早 坂 勝 一 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市雄物川消防団 団長	佐 々 木 信 義 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市石巻消防団 副団長	日 野 慶 昭 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	柴 田 孝 夫 (82)

瑞 単	秋 田 県	元 三種町消防団 副団長	清 水 三 千 男 (70)	瑞 単	秋 田 県	元 仙北市角館消防団 副団長	渡 部 博 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	菅 原 利 雄 (75)	瑞 双	山 形 県	元 大蔵村消防団 団長	横 山 盛 芳 (77)
瑞 単	秋 田 県	元 横手市横手消防団 分団長	鈴 木 淳 一 (76)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	岩 間 利 也 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 団長	鈴 木 正 勝 (78)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	遠 田 文 男 (69)
瑞 単	秋 田 県	元 上小阿仁村消防団 副団長	田 中 巖 (69)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市八幡消防団 副団長	丸 藤 力 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	田 村 勉 (71)	瑞 単	山 形 県	元 西川町消防団 副団長	黒 坂 久 一 (68)
瑞 単	秋 田 県	元 西仙北町消防団 団長	内 藤 惣 二 (77)	瑞 単	山 形 県	元 余目町消防団 分団長	齋 藤 幸 一 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 岩城町消防団 分団長	星 川 雄 悦 (76)	瑞 単	山 形 県	元 庄内町消防団 副団長	齋 藤 肇 (66)
瑞 単	秋 田 県	元 仙北町消防団 副団長	星 宮 岩 男 (86)	瑞 単	山 形 県	元 金山町消防団 副団長	佐 藤 仁 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 団長	間 瀬 堅 一 (76)	瑞 単	山 形 県	元 朝日村消防団 分団長	難 波 清 一 (67)
瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 団長	三 浦 勝 二 (71)	瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 分団長	渡 部 俊 衛 (68)
瑞 単	秋 田 県	元 森吉町消防団 分団長	吉 田 傳 藏 (75)	瑞 単	福 島 県	元 喜多方市消防団 副団長	瓜 生 清 一 (65)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	福 島 県	元 金山町消防団 分団長	おし べ へい へち 八 (70)	瑞 単	福 島 県	元 国見町消防団 団長	まつ うら みき お 男 (67)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 分団長	か とう 喜 代 治 (78)	瑞 単	福 島 県	元 飯野町消防団 分団長	まつ もと み 恵 和 雄 (76)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	か とう 宗 平 (70)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	あぶら ざ 座 安 行 (78)
瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 分団長	くろ き 木 直 博 (72)	瑞 単	福 島 県	元 滝根町消防団 副団長	わた なべ 忠 義 (68)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	さい とう 裕 英 (80)	瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 分団長	わた なべ まさ 江 (74)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	さか い 幸 一 (78)	瑞 小	茨 城 県	元 鹿島南部地区消防 事務組合 消防正監	ほろ だ 田 洋 (70)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	さか い 研 (68)	瑞 双	茨 城 県	元 筑西市消防団 団長	いし うち 光 秋 (72)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	さ とう 健 吉 (70)	瑞 双	茨 城 県	元 城里町消防団 団長	いし ざ 崎 貞 夫 (70)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	しお 屋 昌 則 (72)	瑞 双	茨 城 県	元 三和町消防団 団長	いし づか 徳 太郎 (81)
瑞 単	福 島 県	元 白河市消防団 分団長	そ だ 泰 弘 (74)	瑞 双	茨 城 県	元 常総市消防団 団長	き 木 冨 大 (70)
瑞 単	福 島 県	元 西会津町消防団 分団長	は 長 谷 川 四 郎 (79)	瑞 単	茨 城 県	元 大野村消防団 団長	あん じょう 和 夫 (83)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	はし 本 義 衛 (72)	瑞 単	茨 城 県	元 水府村消防団 副団長	い 岩 間 一 二 (76)

瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 副団長	おの 小 野 瀬 勝 司 (68)	瑞 単	群 馬 県	元 高崎市消防団 分団長	あお き 木 一 夫 (71)
瑞 単	茨 城 県	元 茨城町消防団 分団長	す 管 谷 久 一 (72)	瑞 単	群 馬 県	元 榛名町消防団 団長	くろ 倉 橋 英 雄 (65)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	すぎ 杉 山 克 (70)	瑞 単	群 馬 県	元 桐生市 団長	た 田 中 富 雄 (68)
瑞 単	茨 城 県	元 下館市消防団 分団長	つ 塚 越 武 男 (84)	瑞 単	群 馬 県	元 安中市消防団 団長	なが 岡 義 康 (65)
瑞 単	茨 城 県	元 つくばみらい市消 防団 団長	みや 宮 田 一 日出 (65)	瑞 小	埼 玉 県	元 大宮市 消防正監	なが の 野 勉 (74)
瑞 単	栃 木 県	元 足利市消防団 分団長	かめ 亀 田 善 市 (73)	瑞 双	埼 玉 県	元 吉田町消防団 団長	しお 塩 田 久 光 (72)
瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	た 田 波 敏 弘 (79)	瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 副団長	い 池 田 忠 士 (70)
瑞 単	栃 木 県	元 日光市足尾消防団 副団長	に 二 島 洋 平 (71)	瑞 単	埼 玉 県	元 大滝村消防団 分団長	い 磯 田 史 郎 (72)
瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 分団長	ふ 福 田 利 光 (76)	瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 副団長	かわ 川 田 久 久 (71)
瑞 単	栃 木 県	元 小山市消防団 副団長	もり 森 田 恵 介 (69)	瑞 単	埼 玉 県	元 埼玉西部広域事務 組合飯能消防団 団長	こ 小 久 保 勝 弘 (68)
瑞 単	栃 木 県	元 栗山村消防団 副団長	やま 山 越 一 志 (72)	瑞 単	埼 玉 県	元 松伏町消防団 団長	さい 齊 藤 竹 雄 (71)
瑞 双	群 馬 県	元 上野村消防団 団長	いま 今 井 靖 恵 (66)	瑞 単	埼 玉 県	元 三郷市消防団 分団長	しま 島 田 博 司 (72)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	埼 玉 県	元 鴻巣市消防団 団長	しま だ じゅん ひさ久 (64)	瑞 双	千 葉 県	元 木更津市消防団 団長	さい とう たか き多喜雄 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 八潮市消防団 団長	の ぐち まさ じゅん 正義 (66)	瑞 双	千 葉 県	元 安房郡市広域市町 村圏事務組合 消防正監	すず きの てる 男 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 春日部市春日部消 防団 団長	は ながわ きの じゅん 紀八郎 (68)	瑞 双	千 葉 県	元 市川市消防団 団長	そ だ やま やす ひろ 宏 (73)
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷地区消防組合 熊谷消防団 分団長	ま せ なる こと きち 孝吉 (74)	瑞 単	千 葉 県	元 千葉市消防団 団長	あき した とし 夫 (72)
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 副団長	や ばさ みの りん (71)	瑞 単	千 葉 県	元 飯岡町消防団 団長	すず きの いさお 功 (69)
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	やま さわ たみ や 弥 (70)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	いし くる ひとし 仁 (70)
瑞 小	千 葉 県	元 佐倉市八街市酒々 井町消防組合 消防正監	たつ ぶさ きん じ 治 (74)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	かね こ 子 つらひ 勉 (70)
瑞 小	千 葉 県	元 長生郡市広域市町 村圏組合 消防正監	なか やま よし しのぶ (74)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	はら ぐち たつみおさむ (70)
瑞 小	千 葉 県	元 松戸市 消防正監	ひら がて せい せう 三 (70)	瑞 双	東 京 都	元 麴町消防団 団長	いけ だ きよし 清 (73)
瑞 双	千 葉 県	元 八日市市場市消防団 団長	あ びら いろ はる 幸 夫 (70)	瑞 双	東 京 都	元 尾久消防団 団長	の ぐち ひさ ゆき 行 (70)
瑞 双	千 葉 県	元 成田市消防団 団長	おお さわ みち ひと 彦 (66)	瑞 双	東 京 都	元 西新井消防団 団長	ふく だ 治 とも 源 (77)
瑞 双	千 葉 県	元 流山市消防団 団長	か とう かつ お 夫 (66)	瑞 双	東 京 都	元 志村消防団 団長	まつ せき いき 男 (71)

瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 分団長	あい だ とも たろう (73)	瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 分団長	せき かん とくじろう (77)
瑞 単	東 京 都	元 蒲田消防団 分団長	い い づか やすし 康 (81)	瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 副団長	はら ぶ 秀 人 (71)
瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 分団長	いし かわ きん や 也 (77)	瑞 単	東 京 都	元 臨港消防団 副団長	ふく ざわ みる 方 (76)
瑞 単	東 京 都	元 練馬消防団 分団長	い の うえ さよし 清 (70)	瑞 単	東 京 都	元 日本堤消防団 団長	ふじ 井 とし 敏 男 (71)
瑞 単	東 京 都	元 深川消防団 団長	いま い かず お 夫 (69)	瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 副団長	ほ しな さぶ ろう 三 郎 (77)
瑞 単	東 京 都	元 本郷消防団 分団長	おお い ひろ のぶ 修 (72)	瑞 単	東 京 都	元 赤坂消防団 副団長	みや がわ おさむ 修 (75)
瑞 単	東 京 都	元 芝消防団 分団長	おお さわ たつ お 雄 (78)	瑞 単	東 京 都	元 江戸川消防団 副団長	やす い たか お 雄 (69)
瑞 単	東 京 都	元 調布市消防団 団長	お かわ かず ひろ 洋 (71)	瑞 単	東 京 都	元 玉川消防団 副団長	や た べ かず ひろ 彌 (70)
瑞 単	東 京 都	元 本田消防団 団長	くさ の かず お 雄 (76)	瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	か とう とし 夫 (72)
瑞 単	東 京 都	元 小岩消防団 副団長	こう だ ほん お 夫 (77)	瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防正監	ね ほん ちゆう 正 (76)
瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	こ げやし とら たろう (73)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市泉消防団 団長	あ せい とも 清 (71)
瑞 単	東 京 都	元 足立消防団 副団長	すず きの せい たく 徳 (73)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市栄消防団 団長	い い じま しげる 繁 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	神 奈 川 県	元 伊勢原市消防団 団長	磯 崎 敬 三 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 厚木市消防団 副分団長	小 泉 勝 敏 (73)
瑞 双	神 奈 川 県	元 秦野市消防団 団長	上 野 哲 男 (65)	瑞 単	神 奈 川 県	元 藤沢市消防団 分団長	田 中 禄 郎 (72)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 団長	梅 澤 忠 強 (73)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 副団長	雀 岡 利 靖 (80)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市港南消防団 団長	荻久保 源 司 (71)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市青葉消防団 団長	土志田 啓 次 (77)
瑞 双	神 奈 川 県	元 相模原市 消防正監	倉 田 光 政 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 城山町消防団 団長	村 田 悦 男 (71)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	清 水 信 一 (73)	瑞 双	新 潟 県	元 新潟市 消防正監	阿 部 健 吉 (71)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市山手消防団 団長	寺 田 寛 (75)	瑞 双	新 潟 県	元 新津市消防団 団長	伊 藤 一 榮 (70)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市旭消防団 団長	中 野 信 幸 (72)	瑞 双	新 潟 県	元 新潟市消防団 団長	小 原 虎 士 (68)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市区築消防団 団長	深 川 政 夫 (76)	瑞 双	新 潟 県	元 柏崎市消防団 団長	品 田 汎 朗 (73)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市神奈川消防団 団長	小 川 時 男 (76)	瑞 双	新 潟 県	元 佐渡消防事務組合 畑野消防団 団長	本 間 秋 宣 (80)
瑞 単	神 奈 川 県	元 小田原市消防団 団長	押 田 光 泰 (70)	瑞 単	新 潟 県	元 紫雲寺町消防団 副団長	石 田 勝 弘 (75)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市南消防団 団長	紙 透 照 男 (77)	瑞 単	新 潟 県	元 京ヶ瀬村消防団 副団長	鎌 田 逸 郎 (70)

瑞 単	新 潟 県	元 青海町消防団 副分団長	霜 越 幸 夫 (75)	瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	石 田 武 彦 (71)
瑞 単	新 潟 県	元 村上市消防団 副団長	鈴 木 喜 一 郎 (69)	瑞 単	富 山 県	元 立山町消防団 副団長	上 田 義 一 (71)
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市越路消防団 団長	関 清 (65)	瑞 単	富 山 県	元 新湊市消防団 分団長	久 郷 克 之 (74)
瑞 単	新 潟 県	元 湯沢町消防団 副団長	高 橋 宣 雄 (68)	瑞 単	富 山 県	元 八尾町消防団 分団長	椎 名 久 義 (71)
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市長岡消防団 副団長	土 田 弘 (68)	瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 分団長	城 石 行 夫 (75)
瑞 単	新 潟 県	元 小千谷市消防団 副団長	藤 巻 邦 雄 (67)	瑞 単	富 山 県	元 富山市第一消防団 分団長	関 野 喜 良 (86)
瑞 単	新 潟 県	元 見附市消防団 分団長	松 本 清 (77)	瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	専 光 勇 郎 (71)
瑞 単	新 潟 県	元 五泉市消防団 副団長	山 田 正 榮 (65)	瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 分団長	林 正 通 (73)
瑞 単	新 潟 県	元 加茂市消防団 副団長	吉 井 真 衛 (75)	瑞 単	富 山 県	元 魚津市消防団 分団長	平 田 弘 一 (83)
瑞 単	新 潟 県	元 妙高市消防団 団長	渡 邊 晃 (69)	瑞 単	富 山 県	元 婦中町消防団 分団長	宮 田 治 兵 衛 (79)
瑞 単	新 潟 県	元 味方村消防団 団長	渡 邊 比 故 一 (65)	瑞 単	富 山 県	元 高岡市伏木消防団 副団長	安 田 清 一 (75)
瑞 双	富 山 県	元 小矢部市消防団 団長	森 憲 二 (78)	瑞 単	富 山 県	元 上市町消防団 分団長	吉 田 義 雄 (85)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	石 川 県	元 野々市町消防団 団長	喜多林 富 雄 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 道志村消防団 団長	長 田 和 夫 (65)
瑞 単	石 川 県	元 金沢市第二消防団 分団長	越 山 榮 一 (74)	瑞 単	山 梨 県	元 早川町消防団 副団長	佐 伯 順 治 (64)
瑞 単	石 川 県	元 小松市消防団 副団長	しも 下 坂 薫 (71)	瑞 単	山 梨 県	元 秋山村消防団 副団長	佐 藤 美 治 (65)
瑞 単	石 川 県	元 志賀町消防団 団長	三 原 久 次 (71)	瑞 単	山 梨 県	元 秋山村消防団 副団長	原 田 廣 秋 (68)
瑞 単	石 川 県	元 鶴来町消防団 団長	もり 森 征 光 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 身延町消防団 副団長	わた 渡 邊 将 樹 (63)
瑞 小	福 井 県	元 福井地区消防組合 消防正監	みなみ 南 哲 夫 (70)	瑞 双	長 野 県	元 佐久広域連合 消防正監	いち 市 川 浩 浩 (70)
瑞 双	福 井 県	元 南越消防組合越前 市消防団 団長	あら 新 谷 信 二 (72)	瑞 双	長 野 県	元 下諏訪町消防団 団長	おの 尾 上 武 武 (71)
瑞 双	福 井 県	元 嶺北消防組合坂井 消防団 団長	は 長 谷 川 源 吾 (71)	瑞 単	長 野 県	元 長野市消防団 分団長	こ 小 林 徳 昭 (64)
瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合今庄 消防団 団長	か 加 藤 誠 治 (75)	瑞 単	長 野 県	元 八坂村消防団 団長	たけ 竹 村 信 吉 (60)
瑞 単	福 井 県	元 福井地区消防組合 福井地区消防団 部長	くろ 栗 林 信 幸 (78)	瑞 単	長 野 県	元 塩尻市消防団 団長	なか 中 村 幸 幸 (64)
瑞 単	福 井 県	元 永平寺町消防団 団長	ふじ 藤 田 照 治 (69)	瑞 単	長 野 県	元 本城村消防団 団長	みや 宮 下 喜 義 (62)
瑞 単	福 井 県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 副団長	もり 森 田 吉 二 (70)	瑞 単	長 野 県	元 木曾福島町消防団 団長	あや 安 田 利 夫 (61)
瑞 単	長 野 県	元 軽井沢町消防団 団長	やなぎ 柳 澤 功 (61)	瑞 小	静 岡 県	元 富士市 消防正監	うえ 上 田 政 信 (70)
瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 分団長	よこ 横 林 満 平 (61)	瑞 双	静 岡 県	元 静岡市消防団 団長	かめ 亀 山 裕 裕 (72)
瑞 双	岐 阜 県	元 和良村消防団 団長	くま 熊 崎 尚 毅 (66)	瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 分団長	かわ 川 口 義 一 (65)
瑞 双	岐 阜 県	元 蛭川村消防団 団長	なか 中 西 康 浩 (70)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	こん 近 藤 敏 男 (66)
瑞 双	岐 阜 県	元 坂下町消防団 団長	はら 原 洋 甫 (70)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 分団長	さかき 櫛 原 敏 夫 (69)
瑞 双	岐 阜 県	元 関市連合消防団関 市板取消防団 団長	ひさ 久 江 澄 紀 (73)	瑞 単	静 岡 県	元 富士宮市消防団 分団長	すず 鈴 木 伸 幸 (70)
瑞 双	岐 阜 県	元 本巢市消防団 団長	まつ 松 尾 肇 (70)	瑞 単	静 岡 県	元 焼津市消防団 副団長	なか 中 島 義 次 (68)
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市萩原消防団 団長	くま 熊 崎 義 郎 (64)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市蒲原消防団 団長	ふし 伏 見 義 男 (67)
瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	たに 谷 澤 富 男 (69)	瑞 単	静 岡 県	元 富士宮市消防団 副団長	わた 渡 邊 政 明 (66)
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市消防団 団長	なか 中 島 鐘 義 (64)	瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防正監	こん 近 藤 一 一 (76)
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市中消防団 団長	なが 永 田 明 (64)	瑞 双	愛 知 県	元 豊山町消防団 団長	おお 大 口 耕 造 (75)
瑞 単	岐 阜 県	元 池田町消防団 団長	もり 森 嶋 和 明 (75)	瑞 双	愛 知 県	元 名古屋市貴船消防 団 団長	しば 柴 田 秀 隆 (69)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	愛 知 県	元 名古屋市福田消防団 団長	坂野 進 (72)	瑞 単	三 重 県	元 関町消防団 分団長	中谷 武 (77)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市桜消防団 団長	柿田 章志 (77)	瑞 単	三 重 県	元 伊勢市消防団 分団長	濱村 秀男 (64)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市赤星消防団 団長	勝川 幸男 (77)	瑞 単	三 重 県	元 四日市市楠消防団 副団長	堀 武治 (70)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市汐路消防団 団長	勝 俣 廣 幸 (81)	瑞 小	滋 賀 県	元 湖南広域行政組合 消防正監	奥山 善昭 (70)
瑞 単	愛 知 県	元 岡崎市三島消防団 団長	鈴木 太 (70)	瑞 小	滋 賀 県	元 大津市 消防正監	中山 芳雄 (70)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市楠西消防団 団長	林 繁 勝 (71)	瑞 双	滋 賀 県	元 守山市消防団 団長	美濃部 安一 (70)
瑞 小	三 重 県	元 津市 消防正監	濱口 幸春 (70)	瑞 双	滋 賀 県	元 日野町消防団 団長	吉沢 啓藏 (70)
瑞 双	三 重 県	元 大紀町消防団 副団長	中世古 一英 (70)	瑞 単	滋 賀 県	元 長浜市消防団 団長	伊藤 松太郎 (69)
瑞 双	三 重 県	元 志摩市消防団 副団長	永田 勉 (66)	瑞 単	滋 賀 県	元 草津市消防団 団長	宇野 一夫 (71)
瑞 単	三 重 県	元 津市津消防団 分団長	太田 祥嗣 (69)	瑞 単	滋 賀 県	元 高島市消防団 団長	采野 哲平 (64)
瑞 単	三 重 県	元 熊野市消防団 分団長	島田 勝好 (68)	瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	中村 静登 (70)
瑞 単	三 重 県	元 尾鷲市消防団 分団長	世古 蓮 (72)	瑞 単	滋 賀 県	元 高島市消防団 副団長	薬師川 秀夫 (64)

瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	柳ヶ瀬 孝弘 (73)	瑞 小	大 阪 府	元 吹田市 消防正監	奥谷 有 (70)
瑞 双	京 都 府	元 久御山町消防団 団長	鶴ノ口 均 (70)	瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	竿下 巖 (70)
瑞 単	京 都 府	元 城陽市消防団 団長	芦田 清文 (64)	瑞 双	大 阪 府	元 太子町消防団 団長	澤田 勉 (72)
瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市与保呂消防団 団長	石 東 克彦 (65)	瑞 双	大 阪 府	元 泉佐野市消防団 団長	永井 幸一郎 (75)
瑞 単	京 都 府	元 京都市北消防団 副団長	嘉門 和美 (75)	瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 分団長	池田 弘 (72)
瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 副団長	関 充 利 (79)	瑞 単	大 阪 府	元 堺市美原消防団 副分団長	北野 修 (72)
瑞 単	京 都 府	元 瑞穂町消防団 団長	友 金 一郎 (63)	瑞 単	大 阪 府	元 藤井寺市消防団 副団長	高橋 保男 (75)
瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 副団長	早崎 努 (74)	瑞 単	大 阪 府	元 柏原市消防団 分団長	田中 喜久男 (68)
瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 副団長	原 本 郁雄 (71)	瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 副団長	寺田 公三 (74)
瑞 単	京 都 府	元 八幡市消防団 団長	森 口 英明 (64)	瑞 単	大 阪 府	元 富田林市消防団 副分団長	中山 隆 (71)
瑞 単	京 都 府	元 京田辺市消防団 団長	柳 田 正廣 (64)	瑞 単	大 阪 府	元 大東市消防団 団長	福 川 貢 (65)
瑞 単	京 都 府	元 井手町消防団 団長	山 川 秀孝 (65)	瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 団長	村 下 清 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	兵 庫 県	元 西宮市 消防正監	かわ 川 崎 洋 光 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 副団長	たけ 竹 内 征三郎 (69)
瑞 小	兵 庫 県	元 尼崎市 消防正監	よし 吉 田 茂 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 副団長	なか 中 島 康 弘 (64)
瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市兵庫消防団 団長	いし 伊 庭 勝 一 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 佐用町消防団 副団長	にし 西 尾 弘 (71)
瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市北消防団 団長	な 祢 木 和 明 (65)	瑞 単	兵 庫 県	元 たつの市消防団 副団長	はら 原 田 隆 行 (64)
瑞 双	兵 庫 県	元 吉川町消防団 団長	ひろ 廣 野 廣 数 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	ます 増 澤 勇 夫 (78)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	いし 石 野 吉 英 (78)	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	まつ 松 岡 明 (64)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防団 分団長	おお 大 垣 俊 寛 (68)	瑞 単	兵 庫 県	元 芦屋市消防団 副団長	わた 綿 谷 和 博 (64)
瑞 単	兵 庫 県	元 篠山市消防団 副団長	おお 大 前 修 一 (64)	瑞 単	奈 良 県	元 明日香村消防団 分団長	うえ 上 田 進 康 (76)
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市竹野消防団 分団長	か 加 藤 正 道 (65)	瑞 単	奈 良 県	元 下北山村消防団 分団長	にし 西 脇 忠 次 (72)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市夢前町消防団 団長	くり 栗 林 忠 道 (68)	瑞 単	奈 良 県	元 五條市消防団 分団長	ほ 馬 場 志 郎 (77)
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 副分団長	さか 阪 口 正 (76)	瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 分団長	まつ 松 川 昇 (74)
瑞 単	兵 庫 県	元 相生市消防団 分団長	たか 高 畑 周 作 (64)	瑞 単	奈 良 県	元 上牧町消防団 副団長	まつ 松 久 肇 (70)

瑞 単	奈 良 県	元 安堵町消防団 分団長	もり 森 俊 和 (70)	瑞 単	和 歌 山 県	元 御坊市消防団 分団長	や 矢 村 賢 二 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 副団長	よし 吉 田 喜代彦 (72)	瑞 単	和 歌 山 県	元 太地町消防団 副団長	りょう 漁 野 求 (77)
瑞 双	和 歌 山 県	元 すさみ町消防団 副団長	さか 坂 本 利 文 (77)	瑞 双	鳥 取 県	元 大山町消防団 団長	うす 薄 田 敏 夫 (70)
瑞 双	和 歌 山 県	元 有田市消防団 団長	しま 嶋 田 浩 平 (75)	瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉東部消防団 副団長	おん 音 田 長 穂 (79)
瑞 単	和 歌 山 県	元 紀の川市貴志川消防団 団長	おく 奥 たけし 斌 (66)	瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 副団長	ふく 福 耕 公 雄 (68)
瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	か 加 藤 隆 希 (72)	瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 分団長	や 八 原 眞 人 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 日高川町消防団 団長	きよ 清 長 皓 二 (68)	瑞 単	鳥 取 県	元 羽合町消防団 団長	やま 山 根 政 義 (68)
瑞 単	和 歌 山 県	元 有田川町消防団 分団長	くり 栗 生 滋 (71)	瑞 双	鳥 取 県	元 邑南町消防団 団長	きた 北 村 豊 弘 (70)
瑞 単	和 歌 山 県	元 那智勝浦町消防団 副分団長	たに 谷 口 幸 和 (82)	瑞 双	鳥 取 県	元 浜田市消防団 副団長	たけ 竹 田 善 聰 (64)
瑞 単	和 歌 山 県	元 高野町消防団 団長	なか 中 本 芳 也 (65)	瑞 双	鳥 取 県	元 浜田市消防団 団長	た 田 中 忠 昭 (70)
瑞 単	和 歌 山 県	元 広川町消防団 部長	はやし 林 義 明 (82)	瑞 双	鳥 取 県	元 益田市消防団 団長	なか 中 田 巖 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 分団長	もり 森 田 昌 成 (72)	瑞 双	鳥 取 県	元 美郷町消防団 団長	な 那 須 重 信 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	島 根 県	元 川本町消防団 団長	山 根 武 文 (71)	瑞 単	岡 山 県	元 浅口市消防団 副団長	中 務 章 仁 (66)
瑞 単	島 根 県	元 斐川町消防団 副団長	大 西 義 則 (67)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	橋 本 憲 佐 (66)
瑞 単	島 根 県	元 伯太町消防団 団長	北 尾 文 雄 (65)	瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 副団長	藤 井 寛 治 (65)
瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 分団長	野 津 民 夫 (66)	瑞 単	岡 山 県	元 浅口市消防団 副団長	水 川 憲 一 (66)
瑞 小	岡 山 県	元 津山圏域消防組合 消防正監	辻 勝 征 (70)	瑞 単	岡 山 県	元 落合町消防団 副団長	村 松 久 也 (70)
瑞 双	岡 山 県	元 倉敷市消防団 団長	田 中 肇 (66)	瑞 小	広 島 県	元 広島市 消防正監	東 窪 信 之 (70)
瑞 双	岡 山 県	元 新庄村消防団 団長	深 井 義 明 (65)	瑞 双	広 島 県	元 君田村消防団 団長	田 中 暁 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 瀬戸内市消防団 団長	浦 上 次 文 (67)	瑞 双	広 島 県	元 東城町消防団 団長	原 三 夫 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	大 川 征 治 (74)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	旭 英 隆 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	小 林 一 朗 (72)	瑞 単	広 島 県	元 黒瀬町消防団 分団長	荒 谷 信 雄 (74)
瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 副団長	近 土 寶 (67)	瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 副団長	上 田 照 明 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	高 木 嘉 人 (65)	瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 分団長	梶 川 素 照 (85)

瑞 単	広 島 県	元 府中町消防団 副分団長	兼 本 忠 義 (77)	瑞 双	山 口 県	元 防府市消防団 団長	原 田 幸 男 (71)
瑞 単	広 島 県	元 大柿町消防団 副分団長	坂 倉 栄 治 (81)	瑞 単	山 口 県	元 美祢市消防団 分団長	伊 藤 定 行 (73)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	坂 田 壽 男 (71)	瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	今 橋 庄 二 (73)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	田 中 利 穂 (73)	瑞 単	山 口 県	元 周南市消防団 副団長	岩 崎 幸 彦 (72)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	日 山 茂 之 (71)	瑞 単	山 口 県	元 玖珂町消防団 分団長	植 野 重 信 (72)
瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 副団長	本 庄 歳 松 (70)	瑞 単	山 口 県	元 須佐町消防団 分団長	大 田 保 (76)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	前 谷 研 三 (71)	瑞 単	山 口 県	元 福栄村消防団 分団長	金 子 光 男 (79)
瑞 単	広 島 県	元 広島市佐伯消防団 副団長	松 本 勲 (70)	瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	河 添 正 人 (71)
瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 副分団長	松 本 恵 行 (76)	瑞 単	山 口 県	元 秋芳町消防団 副団長	倉 増 道 夫 (72)
瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 副分団長	妙 見 一 則 (83)	瑞 単	山 口 県	元 美東町消防団 分団長	小 林 照 明 (72)
瑞 単	広 島 県	元 広島市西消防団 分団長	八 木 一 彦 (85)	瑞 単	山 口 県	元 阿武町消防団 分団長	佐 村 守 守 (79)
瑞 単	広 島 県	元 尾道市消防団 副団長	山 田 信 行 (70)	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	白 川 清 (76)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	たなか 初 男 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 副団長	こばやし 康 伸 (65)
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	たに 谷 口 紀 之 (72)	瑞 単	徳 島 県	元 吉野川市消防団 副団長	さ 藤 吉 胤 (80)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	はら 原 伊 津 治 (74)	瑞 単	徳 島 県	元 美波町消防団 副団長	てら 寺 内 敏 夫 (70)
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	ふく 福 田 真 男 (84)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 分団長	なか 中 西 伸 二 (65)
瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団 分団長	もり 森 近 公 司 (77)	瑞 双	香 川 県	元 三豊市消防団 副団長	たに 谷 川 利 行 (77)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 副団長	やま 山 田 武 人 (72)	瑞 双	香 川 県	元 東かがわ市消防団 団長	はら 原 つとむ 勤 (73)
瑞 単	山 口 県	元 小野田市消防団 分団長	よし 吉 岡 信 正 (78)	瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 副団長	あき 綾 井 俊 徳 (68)
瑞 双	徳 島 県	元 牟岐町消防団 団長	おお 大喜田 由 廣 (76)	瑞 単	香 川 県	元 善通寺市消防団 副団長	いり 入 江 弘 司 (72)
瑞 双	徳 島 県	元 佐那河内村消防団 団長	か 加 藤 秀 敷 (71)	瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 分団長	いげ 岩 本 吉 進 (78)
瑞 双	徳 島 県	元 羽ノ浦町消防団 団長	とみ 富 永 康 弘 (65)	瑞 単	香 川 県	元 仁尾町消防団 副団長	き 喜 田 忠 助 (74)
瑞 単	徳 島 県	元 鳴門市消防団 副団長	お 小 野 守 (62)	瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 団長	あき 寒 川 正 行 (73)
瑞 単	徳 島 県	元 那賀町木頭消防団 団長	きつ 橋 本 堅 次 (65)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	はしば 蜂須賀 義 則 (69)

瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	まつ 松 尾 清 文 (65)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	みや 宮 崎 康 弘 (79)
瑞 単	香 川 県	元 琴南町消防団 団長	みや 宮 地 優 (73)	瑞 単	愛 媛 県	元 菊間町消防団 団長	き 柚 山 成 (64)
瑞 単	香 川 県	元 大野原町消防団 団長	もり 守 谷 彰 介 (70)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	わか 脇 長 英 雄 (78)
瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 副団長	よし 吉 田 豊 (79)	瑞 双	高 知 県	元 香南市夜須消防団 団長	なが 永 野 勉 (71)
瑞 双	愛 媛 県	元 今治市消防団 団長	やま 山 田 三 木 男 (64)	瑞 単	高 知 県	元 安芸市消防団 副団長	あ 阿 部 望 東 男 (69)
瑞 単	愛 媛 県	元 三間町消防団 団長	あお 青 木 忠 康 (71)	瑞 単	高 知 県	元 芸西村消防団 副団長	いり 入 交 正 雄 (66)
瑞 単	愛 媛 県	元 伊予市消防団 副団長	いけ 池 田 光 一 (64)	瑞 単	高 知 県	元 吾川村消防団 副団長	おお 大 原 康 男 (76)
瑞 単	愛 媛 県	元 鬼北町消防団 団長	いけ 池 田 道 廣 (64)	瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	くすの 楠 瀬 幸 陽 (79)
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 団長	き 佐々木 茂 治 郎 (72)	瑞 単	高 知 県	元 高輪消防組合十和 消防団 副団長	たか 高 瀬 勲 男 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 波方町消防団 団長	たか 高 見 文 雄 (64)	瑞 単	高 知 県	元 中村市消防団 分団長	た 田 中 正 (84)
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	なか 中 岡 幹 雄 (78)	瑞 単	高 知 県	元 四万十市消防団 副団長	なが 長 谷 淳 (80)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 団長	ふじ 藤 田 修 (64)	瑞 単	高 知 県	元 越知町消防団 副団長	ふじ 藤 原 三 夫 (70)

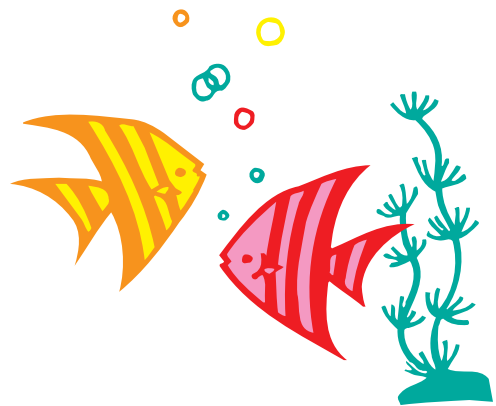
賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	高 知 県	元 土佐清水市消防団 副団長	横 山 清 志 (69)	瑞 単	福 岡 県	元 宮若市消防団 分団長	田 尻 勝 巳 (76)
瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	岡 田 孝 範 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 香春町消防団 団長	塚 本 勝 憲 (69)
瑞 双	福 岡 県	元 黒木町消防団 団長	木 下 義 一 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市若松消防団 副団長	東 本 健 治 (64)
瑞 双	福 岡 県	元 八女市上陽消防団 団長	高 田 龍 介 (71)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市南消防団 分団長	中 川 朝 康 (75)
瑞 双	福 岡 県	元 嘉麻市消防団 団長	藤 川 重 喜 (80)	瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 分団長	中 嶋 章 (75)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市水上消防団 分団長	木 下 克 馬 (69)	瑞 単	福 岡 県	元 犀川町消防団 副団長	長 末 勝 次 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 団長	清 水 永 紘 一 (68)	瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 分団長	平 田 次 男 (73)
瑞 単	福 岡 県	元 山田市消防団 分団長	笹 尾 健 一 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 添田町消防団 副団長	福 田 博 (64)
瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 団長	篠 倉 章 (64)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市八幡西消防団 分団長	松 尾 喜一郎 (76)
瑞 単	福 岡 県	元 水巻町消防団 分団長	清 水 義 夫 (72)	瑞 単	福 岡 県	元 築上町消防団 副団長	松 本 吉 幸 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市門司消防団 分団長	杉 原 誠 (72)	瑞 単	福 岡 県	元 田川市消防団 分団長	皆 川 信 幸 (78)
瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 団長	高 尾 紘 起 (71)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	師 岡 康 仁 (71)

瑞 双	佐 賀 県	元 吉野ヶ里町消防団 団長	大 川 正 久 (70)	瑞 双	長 崎 県	元 東彼杵町消防団 団長	浜 田 勝 英 (70)
瑞 双	佐 賀 県	元 太良町消防団 団長	秀 島 勝 之 (70)	瑞 双	長 崎 県	元 諫早市消防団 副団長	森 法 義 (78)
瑞 双	佐 賀 県	元 唐津市厳木消防団 団長	毛 利 孝 行 (64)	瑞 双	長 崎 県	元 大村市消防団 団長	山 本 豊一郎 (68)
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	川 原 勝 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 石田町消防団 団長	梅 田 鐵 男 (69)
瑞 単	佐 賀 県	元 諸富町消防団 副団長	古 賀 弘 人 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 波佐見町消防団 団長	江 添 三 光 (72)
瑞 単	佐 賀 県	元 鳥栖市消防団 分団長	齊 藤 友 幸 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 時津町消防団 分団長	亀 本 重 幸 (82)
瑞 単	佐 賀 県	元 神埼市消防団 分団長	田 中 忠 明 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 奈留町消防団 分団長	牽 中 静 磨 (76)
瑞 単	佐 賀 県	元 肥前町消防団 団長	中 山 昌 太 (83)	瑞 単	長 崎 県	元 平戸市消防団 副団長	中 島 邦 昭 (67)
瑞 小	長 崎 県	元 長崎市 消防正監	吉 原 昭 信 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 福島町消防団 副団長	永 田 恵 (71)
瑞 双	長 崎 県	元 南島原市消防団 団長	石 川 昭 三 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 崎戸町消防団 分団長	中 村 幸 良 (81)
瑞 双	長 崎 県	元 佐世保市消防団 団長	岡 村 隆 英 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 団長	百 津 隆 博 (69)
瑞 双	長 崎 県	元 対馬市消防団 副団長	武 末 榮 連 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	森 季 男 (71)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	山 本 謙 吉 (72)	瑞 双	大 分 県	元 杵築市山香消防団 団長	河 野 一 幸 (66)
瑞 双	熊 本 県	元 栖本町消防団 団長	原 田 次 郎 (72)	瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	一ノ宮 品 夫 (79)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	内 山 元 美 (66)	瑞 単	大 分 県	元 中津市消防団 団長	内 入 和 馬 (70)
瑞 単	熊 本 県	元 合志町消防団 団長	緒 田 義 房 (65)	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	小 野 千 秋 (79)
瑞 単	熊 本 県	元 阿蘇市消防団 副団長	佐 藤 慎 一 (64)	瑞 単	大 分 県	元 天瀬町消防団 団長	川 津 初 男 (81)
瑞 単	熊 本 県	元 小国町消防団 副団長	高 野 勲 (74)	瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 副団長	榎 野 隆 幸 (65)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	谷 崎 義 勝 (81)	瑞 単	大 分 県	元 佐伯市宇目消防団 団長	首 藤 幸 市 (67)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	中 村 重 秋 (80)	瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 分団長	城 盛 幸 (72)
瑞 単	熊 本 県	元 荅北町消防団 団長	宮 崎 正 文 (64)	瑞 双	宮 崎 県	元 北郷町消防団 団長	荒 武 正 行 (63)
瑞 単	熊 本 県	元 水俣市消防団 副団長	森 山 伸 一 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 分団長	黒 木 彬 夫 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 岡原村消防団 団長	吉 武 一 穂 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 高千穂町消防団 団長	寺 内 章 (64)
瑞 双	大 分 県	元 大分市消防団 団長	川 中 末 信 (76)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 団長	峯 崎 捷 人 (70)

瑞 双	鹿 児 島 県	元 曾於市消防団 団長	山 本 光 雄 (70)	旭 双	島 根 県	現 (一社)島根県消防 設備協会 会長	大 谷 公 夫 (70)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 高尾野町消防団 団長	片 川 二 安 (74)	旭 双	群 馬 県	現 群馬県婦人(女性) 防火クラブ連絡協 議会会長	岸 数 子 (70)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 分団長	窪 勝 明 (75)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 喜入町消防団 分団長	竹 内 勇 (78)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 上屋久町消防団 団長	中 島 俊 男 (72)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 垂水市消防団 分団長	平 原 弘 美 (78)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 吉松町消防団 分団長	福 原 千 年 (78)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 国分市消防団 副団長	藤 崎 三 郎 (73)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 穎娃町消防団 団長	淵 田 論 (81)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 宇検村消防団 団長	渡 秀 美 (75)				
瑞 単	沖 縄 県	元 国頭地区行政事務 組合消防団 副団長	大 田 和 功 (75)				
瑞 中	埼 玉 県	元 消防庁消防研究所 所長	亀 井 浅 道 (70)				



## 平成25年春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	北 海 道	現 芦別市消防団 副団長	つち やま こう いち (67) 土 山 孝 一 (67)	藍 綬	山 形 県	現 高島町消防団 団長	わた なつ しょう いち (53) 渡 部 京 一 (53)
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 東藻琴消防団 団長	はら こん せい ぶ (73) 原 紺 盛 雄 (73)	藍 綬	福 島 県	現 会津美里町消防団 副団長	さくら い ひろ のぶ (61) 櫻 井 宏 信 (61)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 分団長	きく せいの せい げ (63) 菊 池 清 悟 (63)	藍 綬	福 島 県	現 新地町消防団 副団長	つの たけ せい ぶ (60) 角 田 正 悦 (60)
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	き せいの せい 夫 (58) 木 村 晴 夫 (58)	藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	さくら しほ けい じ (66) 福 島 啓 嗣 (66)
藍 綬	青 森 県	現 むつ市消防団 団長	すけ せい けい 夫 (64) 住 吉 明 夫 (64)	藍 綬	福 島 県	現 白河市消防団 副団長	わた なつ へたか せい ち (62) 渡 辺 高 章 (62)
藍 綬	青 森 県	現 五戸町消防団 副団長	なか せい みつ とも (56) 中 里 光 朋 (56)	藍 綬	茨 城 県	現 つくば市消防団 団長	くろ せい せい とも (70) 倉 持 政 博 (70)
紅 綬	岩 手 県	人命救助者	かど わたる かつ ひろ (21) 門 渡 和 拓 (21)	藍 綬	茨 城 県	現 結城市消防団 団長	かど しのぶ けい じ (71) 館 野 祐 二郎 (71)
紅 綬	岩 手 県	人命救助者	かど わたる けい ち (52) 門 渡 美智代 (52)	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市黒磯消防団 団長	さくら せい けい とも (55) 相 馬 岩 利 (55)
紅 綬	岩 手 県	人命救助者	かど せい せい 子 (55) 分 道 洋 子 (55)	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市塩原消防団 副団長	かど せい せい とも (59) 藤 田 季 一 (59)
藍 綬	岩 手 県	現 洋野町消防団 団長	あけ とう せい 実 (62) 明 戸 実 (62)	藍 綬	群 馬 県	現 伊勢崎市消防団 副団長	さくら せい せい とも (64) 櫻 井 博 士 (64)
紅 綬	山 形 県	人命救助者	く せい せい 将 (25) 工 藤 彰 将 (25)	藍 綬	群 馬 県	元 館林地区消防組合 消防団千代田消防団 団長	た ちゅう せい とも (55) 田 中 盛 栄 (55)
紅 綬	山 形 県	人命救助者	こほり やま せい 七 (20) 郡 山 七 海 (20)	藍 綬	群 馬 県	現 館林地区消防組合 消防団館林消防団 団長	た きち せい とも (53) 吉 澤 祐 志 (53)
紅 綬	埼 玉 県	人命救助者	ふじ せい せい 二 (53) 藤 田 匡 二 (53)	藍 綬	東 京 都	現 豊島消防団 副団長	たか せい せい とも (72) 瀧 澤 光 雄 (72)
藍 綬	千 葉 県	現 市川市消防団 団長	たか せい せい 孝 (54) 高 橋 廣 孝 (54)	藍 綬	東 京 都	現 向島消防団 分団長	ば せい せい とも (64) 馬 場 一 元 (64)
藍 綬	千 葉 県	現 成田市消防団 団長	むら せい せい 則 (59) 村 島 義 則 (59)	藍 綬	東 京 都	現 本所消防団 副団長	か の せい せい 康 (59) 箕 輪 善 康 (59)
藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 分団長	あお き せい 明 (71) 青 木 英 明 (71)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市戸塚消防団 副団長	か の せい せい 雄 (69) 金 子 保 雄 (69)
藍 綬	東 京 都	現 城東消防団 副団長	あお き せい 親 (71) 青 木 弘 親 (71)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市臨港消防団 分団長	かみ せい せい 誠 (64) 上 澤 誠 誠 (64)
藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	うめ たけ せい 武 (58) 梅 田 武 (58)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市加賀町消防団 副団長	まつ せい せい 夫 (65) 松 本 則 夫 (65)
藍 綬	東 京 都	現 麴町消防団 団長	お の せい せい 作 (63) 小野里 耕 作 (63)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市宮前消防団 分団長	もち せい せい 卓 (63) 持 田 卓 (63)
藍 綬	東 京 都	現 上野消防団 副団長	こ せい せい 昭 (68) 小 林 信 昭 (68)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	よし せい せい 明 (72) 吉 田 敏 明 (72)
藍 綬	東 京 都	現 町田市消防団 副団長	さ せい せい 誠 (58) 佐 藤 誠 誠 (58)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市南消防団 副団長	たか せい せい 夫 (64) 浦 井 正 夫 (64)
藍 綬	東 京 都	現 金町消防団 分団長	し せい せい 次 (63) 清 水 慶 次 (63)	藍 綬	富 山 県	現 砺波市消防団 副団長	さくら せい せい 勉 (62) 紺 田 勉 (62)
藍 綬	東 京 都	現 杉並消防団 副団長	すが せい せい 介 (69) 菅 沼 孝 介 (69)	藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 副団長	た せい せい 一 (66) 田 島 啓 一 (66)
藍 綬	東 京 都	現 荒川消防団 副団長	せ せい せい 憲 (66) 瀬 畑 恒 憲 (66)	藍 綬	石 川 県	現 七尾市第2消防団 副団長	つじ せい せい 明 (63) 辻 正 明 (63)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
紅 綬	山 梨 県	人命救助者	井 出 静 雄 (56)	藍 綬	愛 知 県	現 安城市消防団 団長	榑 原 宣 (50)
紅 綬	山 梨 県	人命救助者	杉 田 夕 里 子 (43)	藍 綬	愛 知 県	現 岡崎市河合消防団 団長	林 昌 宏 (69)
藍 綬	岐 阜 県	現 各務原市消防団 団長	奥 村 政 広 (57)	藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 団長	稲 垣 貢 (75)
藍 綬	岐 阜 県	現 美濃市消防団 団長	近 藤 友 幸 (61)	藍 綬	滋 賀 県	現 近江八幡市消防団 副団長	池 田 秀 夫 (62)
藍 綬	岐 阜 県	現 大垣市墨俣町消防団 団長	関 谷 和 彦 (56)	藍 綬	滋 賀 県	現 豊郷町消防団 副団長	沢 正 一 (58)
藍 綬	岐 阜 県	現 関市消防団 団長	多 田 壽 夫 (57)	藍 綬	京 都 府	現 井手町消防団 団長	綱 田 貞 二 (54)
藍 綬	岐 阜 県	現 白川村消防団 団長	中 村 秀 司 (61)	藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 副団長	井 関 義 次 (57)
藍 綬	静 岡 県	現 浜松市消防団 分団長	伊 藤 嘉 規 (55)	藍 綬	大 阪 府	現 太子町消防団 副団長	金 谷 和 美 (60)
紅 綬	愛 知 県	人命救助者	岡 島 俊 成 (48)	藍 綬	大 阪 府	現 河南町消防団 副団長	杉 原 勝 (70)
紅 綬	愛 知 県	人命救助者	堀 場 文 夫 (73)	藍 綬	大 阪 府	現 四條畷市消防団 副団長	野 中 憲 一 (61)
藍 綬	愛 知 県	現 北名古屋市消防団 分団長	井 上 俊 尚 (54)	藍 綬	大 阪 府	現 枚方市消防団 副団長	村 岡 次 雄 (63)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市名北消防団 団長	長 田 敏 克 (74)	藍 綬	大 阪 府	現 八尾市消防団 分団長	村 島 友 忠 (62)
藍 綬	兵 庫 県	現 姫路市姫路西消防団 団長	大 塚 秀 祐 (65)	紅 綬	佐 賀 県	人命救助者	山 川 輝 裕 (47)
藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市兵庫消防団 団長	高 口 信 喜 (65)	藍 綬	熊 本 県	現 美里町消防団 副団長	吉 住 淳 一 (54)
藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市中央消防団 団長	土 屋 雄 司 (64)	藍 綬	熊 本 県	現 宇城市消防団 副団長	吉 田 公 美 (50)
藍 綬	奈 良 県	現 田原町消防団 分団長	前 田 勝 弘 (75)	藍 綬	宮 崎 県	現 宮崎市消防団 副団長	高 橋 昌 久 (58)
藍 綬	奈 良 県	現 天理市消防団 分団長	山 中 俊 博 (70)	黄 綬	栃 木 県	現 ジーエムいちほら工業㈱ 代表取締役社長	光 野 纈 (80)
藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 分団長	長谷川 周 二 (69)	黄 綬	埼 玉 県	現 能美防災㈱ 代表取締役会長	田 上 征 (73)
藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 団長	安 田 悟 朗 (70)	黄 綬	神 奈 川 県	現 宮田工業㈱ 取締役副会長	近 藤 勝 (64)
藍 綬	岡 山 県	現 玉野市消防団 団長	中 根 正 雄 (68)	黄 綬	北 海 道	現 東洋防災㈱ 代表取締役	杉 田 公 男 (73)
藍 綬	福 岡 県	現 北九州市八幡東消防団 副団長	古 賀 憲 二 (57)	黄 綬	三 重 県	現 鈴鹿防災㈱ 取締役会長	久 畑 久 一郎 (67)
藍 綬	福 岡 県	現 春日市消防団 団長	柴 田 利 徳 (57)	黄 綬	広 島 県	現 ㈱国栄電気商会 取締役会長	河 村 満 (78)
藍 綬	福 岡 県	現 若本市消防団 団長	御 厨 泰 雄 (68)	黄 綬	熊 本 県	現 ㈱九州消防設備 代表取締役社長	青 木 亮 二 (68)
藍 綬	福 岡 県	元 嘉麻市消防団 団長	山 田 正 昭 (68)	藍 綬	秋 田 県	現 秋田県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	相 馬 し げ 子 (64)
紅 綬	佐 賀 県	人命救助者	金 山 晃 一 (45)	藍 綬	茨 城 県	現 茨城県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	久 慈 靖 恵 (72)

# 6月2日～8日は「危険物安全週間」

総務省 消防庁 危険物保安室

消防庁では、危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を推進することにより、各事業所における自主保安体制の確立を図るため、毎年6月の第2週（平成25年度は6月2日（日）から6月8日（土）までの7日間）を「危険物安全週間」とし、地方公共団体、全国消防長会及び一般財団法人全国危険物安全協会との共催により、危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を推進し、広く国民の方々に対して啓発活動を展開しています。

危険物安全週間期間中は、全国各地で「実施方針」に示す各種取り組みが行われます。

## 平成25年度危険物安全週間推進ポスター



モデル 宮間 あやさん（サッカー選手）

## 実施方針

- (1) 危険物施設における保安体制の整備促進
  - ア 危険物事故防止アクションプランに沿った事故防止対策の徹底
  - イ 危険物施設の事故防止対策の推進と業種を超えた事故情報の共有化
  - ウ 危険物施設における地震・津波対策及び被害軽減対策の推進
  - エ 危険物施設の効果的な日常点検等による安全対策の推進
  - オ 安全性確保を図るための保安教育の充実
- (2) 危険物の保安に対する意識の啓発
  - ア 多様な機会を通じた危険物の保安に対する意識の啓発
  - イ 講演会、研修会等の開催
- (3) 危険物保安功労者の表彰  
危険物保安功労者表彰、優良危険物関係事業所表彰等

### 平成25年度「第12回危険物事故防止対策論文」

(応募数25編)

#### ○消防庁長官賞（2編）

受賞者 三洋化成工業株式会社桂研究所 萬治 亮三  
論文名 危険物事故防止対策の原点「うっかりミス」撲滅への挑戦＝若年層研究員が主役の「守り」から「攻め」への事故防止実践型・反復型訓練による安全ポテンシャル値の向上＝

受賞者 大竹市消防本部化学機動隊 中村 将也  
論文名 石油コンビナート等特別防災区域内における「未来の重大事故」を無くすための提言について  
(敬称略)

#### 問い合わせ先

消防庁危険物保安室  
TEL：03-5253-7524

# 初の女性消防団員が誕生

大阪府茨木市消防団

茨木市消防団に初の女性消防団員が入団しました。平成25年4月14日に消防本部で行われた消防団入団式で団員として辞令を交付され、5名の女性消防団員が誕生しました。

入団した女性消防団員は、同25日消防本部が行った「救急安心センターおおさか」普及啓発街頭キャンペーンに木本茨木市長とともに参加し、JR茨木駅構内において初の活動を行いました。

女性消防団員は引き続き、ひとり暮らし高齢者宅への防火訪問などの火災予防広報活動や、地域住民（自主防災組織等）への防火・防災指導と応急手当の普及指導等を行います。女性ならではの視点を取り入れた、きめ細やかな活動を目指します。



# モデル少年消防クラブの活動事例

## 太陽わらべ太鼓少年消防クラブ（北海道北見市）

山内 克也

このクラブの母体となるのは、太陽わらべ太鼓保存会という和太鼓のチームです。小学校1年生から高校3年生まで50名ほどが、小学生チームと中学生以上の2チームに分かれて普段活動をしています。平成22年にモデルクラブの話があり、年齢、要件ともチームの構成と合致しており、また会の目的とする郷土愛、仲間との結束を固めることなど、地域防災や地域貢献について会員がさらに考えるよき機会と考え、北見市においては10年ぶりとなる少年消防クラブの誕生となりました。



発足式



防災フェスティバル

毎年7月初頭に消防署、消防団、また消防関係5団体が共催して、防災フェスティバルを自分たちの地域は自ら守るという地域の防火意識の高揚と、消防力を知ってもらうことを目的に行っており、クラブも小型ポンプ操法を披露しました。

夏休みには少年消防クラブが集まって、消防の職員の方々が指導を担当し、合同で1泊学習会が実施され、学習会では救急隊員の指導の下に訓練を受けました。この1泊学習会では、小学校の5、6年生を対象に毎年行われており、全員が一度は体験できるようにしています。

12月には毎年歳末火災特別警戒の協賛行事として防火餅つきを行っていて、その中で私たちの和太鼓演奏、パンフレットの配布や火災予防の呼びかけなどの啓蒙活動を行っています。子供達は大人が火災予防を訴えるよりも、市民の方々に訴える力に絶大なものがあり、行事などを通しての子供達の火災予防の呼びかけに、熱心に耳を傾けてくれました。

先の大津波のときに子供達が率先して避難したことで、その地域の多くの方が命を救われたという話を聞きました。この発達期の子供達が、これからもさらに正しい防火、また防災知識を身に付け、子供達にとっても少年消防クラブ員であるという誇りが持てるような、何か認定資格みたいなものも作ったりして取り組むと、もっと子供達も盛んに取り組んでくれるのではないかと考えております。



一泊学習会救急講習



防火餅つき

## 青梅消防少年団（東京都青梅市）

星野 誠二

青梅消防少年団の発足は昭和55年3月で、東京都の中では67番目です。平成25年1月現在で、団員は22名。準指導者、指導者合わせて23名、合計45名の1隊4班体制で活動しています。月に2回ほどの活動を行い、それぞれ消防に対する訓練、合わせて鼓笛の練習等も行っています。また、水難救助訓練、山火事の防止ということで御岳山の防火パトロール等も行っています。

4月は入卒団式。5月は、ビューティフル青梅ということで、美化活動として当少年団も参加し、町のゴミ拾い等を行います。活動終了後、新入団員の歓送迎会等も兼ね、多摩川の河川敷で、ピザ作りを行い親睦を深め



ビューティフル青梅



水難救助訓練

夏休みは、中学校のプールを借り、水難救助訓練としてペットボトルを使った緊急的な泳ぎの訓練等を行っています。後々は学校の許可が得られれば、着衣泳等の訓練もしたいと思っています。また、キャンプ場で1泊2日で訓練を行い、団体活動の勉強や自炊の厳しさ、火の扱い方等の勉強もしています。

鼓笛隊としては、1月に青梅市の消防団出初め式の鼓笛パレード、青梅マラソンの30キロの前座での鼓笛のパレードを披露しました。また、春の火災予防運動に合わせて、消防署の庁舎公開行事で、団員加入促進のキャンペーンを行っており、ここでも鼓笛を披露しています。



鼓笛パレード

ています。

モデル消防少年団クラブの認定を受けたことにより、D型ポンプを導入し、その使い方の勉強や、実際に放水訓練等も行い、また消火器の使用体験等、応急救護訓練、結索訓練等も一緒に行っています。そのほか、消防署の隊員たちの資機材や訓練等の見学、並びに指導を受け、規律訓練や結索訓練等も行いました。

課題としては、子どもたちが辞めていく中での新入団員が少ないことで、非常に団員集めに苦慮しているところです。今後は駅頭でのパンフレットの配布や、近所への声掛け等いろいろ考えていきたいと思っています。

## 下田少年消防クラブ（高知県四万十市）

浅尾 拓

市立下田小学校では、以前から地元消防団に消防、防災訓練の指導をいただき、防災に対する意識が強いことから、平成23年5月、少年消防クラブの発足となりました。下田小学校の高学年で構成されて、全校生徒64名のうち6年生と5年生がクラブ員として活動し



ています。クラブ指導は地元の消防団である四万十市消防団下田分団と、消防署が行っています。

活動内容の一つ目は消防署体験学習。実際の公道を消防車で走行する体験をし、救急車や消防車の車内説明や、救急法では固定する副子を使った応急手当、心肺蘇生法、真横にロープを張ったロープ渡りや、災害活動に着的防火服の着用、消防装備品の点検などを行いました。



消防署体験学習



DIG

続いての活動はDIG。昨年の指導者研修会で行っていたDIGを見たことから実施しました。下田地区の危険性について研究をし、地域のことに詳しい消防団の方に協力をいただきました。

三つ目の活動は「こども防災フェス」です。下田少年消防クラブ、伊田少年消防クラブ、上川口少年消防クラブの三つのモデルクラブ員を対象としたイベントでしたが、周囲の子どもたちにも声掛けをし、防火について学んでもらい、また消防団員の指導力の向上も兼ねて開催しました。参加団体は消防組合のほか、日本防火協会の協賛行事の助成を受け、四万十市、黒潮町、四万十市消防団、黒潮町消防団や高知県、高知県消防協会、日本赤十字社、自衛隊、日本公衆電話会など、12もの団体の協賛協力をいただきました。また、米海軍日本管区司令部消防隊広報官である長谷川さんに講演いただき、自分の命は自分で守るために自然に体が動けるようないろいろな知識を、大変楽しく学べたイベントとなりました。日本赤十字社では、通信や仮設ベッドの体験。自衛隊は特殊車両乗車体験、ロープの結び方などを教わりました。また、四万十市と黒潮町の両消防団に役割分担してもらい、ブルーシートで簡易テントを作ったり、紙パックでの皿作り、段ボールで作るトイレ、ゴミ袋を使ったレインコート、ゴミ袋に新聞紙を詰めた布団、また段ボールを使った間仕切りなど防災のものづくりを体験しました。そして自衛隊による炊き出し訓練の試食では四万十市と黒潮町の女性防火クラブの方々にお手伝いいただき、来場者やクラブの子供達が自分で作った紙パックのお皿で、カレーの試食をしました。その他雨体験、土石流、災害3Dシアター、土石流模型実験装置や災害用171伝言ダイヤル等の体験イベントを実施しました。



こども防災フェスタ

これまで活動していく上で、生徒が少なくなったことによるクラブ数の減少、クラブ員の習い事が重なって研修日程の調整がとても難しいことや指導者が仕事の都合で参加が少ないことなど、指導者の後継者の育成、学校との連携が継続できるか不安といったような課題点も見えてきました。

活動目標は春、秋の火災予防運動による防火啓発活動や、「こども防災フェス」

の継続、コミュニティー助成事業で配備された資機材の取り扱いや、近隣の老人入所施設と防火避難訓練、野営訓練などを計画しているところです。

少年消防クラブができたことで、子どもと消防団のつながりができ、消防団と地域の関係がより一層密になり、消防団員の中にも、イベントを実施することにより指導する楽しさを実感し、その広がりも見えてきています。発足当時に比べ、子どもの地域活動や防災に対する積極性も生まれ、私達消防も架け橋的な存在になってきました。なにより、防災を高知県の文化として根付かせていきたいと思います。

少年消防クラブが発足し、この2年、クラブ員は驚くほど地域防災に関心を示すようになりました。その気持ちに応えるため、私達防災関係者も少年消防クラブと一緒に活動を続け、日頃から顔の見える関係を築くとともに、今後必ず起こるとされている南海地震に備え、自助、共助による防災力の強化を図りたいと考えております。

## 高瀬少年消防クラブ（大分県日田市）

森澤 駿

日田玖珠広域圏内の人口の70%を占める日田市に是が非でも少年消防クラブを結成しなければという思いで、平成22年7月に高瀬小学校並びに育友会の全面的な協力により、初めてとなる少年消防クラブが誕生しました。クラブ員は、現在4年生8名、5年生5名、6年生7名の総員20名で構成されています。

高瀬少年消防クラブの指導者は消防職員であることから、消防署での指導が容易なことを生かして、基本動作、訓練、消火訓練、救急訓練、救助訓練をより多く子供達に伝えるようにしています。また、年2回の火災予防週間には消防職員や消防団員とともに住宅防火キャンペーンに参加し、防火啓発活動を担う重要な役割を果たしており、少年消防クラブの目標である少年達への明朗活発な気風の育成並びに火災予防の普及、及び一般的防火思想の向上に向け活動が続いているところです。



放水体験



訓練披露

活動では、消防署で2日間にわたり、放水体験、救急訓練、救助訓練等の研修を受けるとともに、エアテントによる避難所体験を実施しました。救急訓練は、骨折した方を三角巾で固定することや心臓マッサージ、AEDを用いた訓練等を行いました。夜は消防署の車庫で、自分達でテントを張って、自炊し、寝泊りするという形でやっております。

それから、日田市誠和町での自主防災訓練には、少年消防クラブも参加しました。その際、スライドを使って地震について発表しました。この発表のスライドは地震時の対応などについてアニメ化したもので、子供達が作って発表しました。また、日田市の大山町の松原ダムの管理所施設を見学に行き、施設における洪水調整の役割、規模並びに歴史を学びました。平成24年3月には、防災用品の訓練披露として、災害避難用テントを使用して、災害により頭部と左足を負傷した人への応急手当の訓練を披露しました。



消防庁長官賞を受けた防災マップ

続いて、平成24年度防災マップ作成による日田市防災研修では、日田市は今年度、九州北部豪雨で災害を受けていることから、初めて経験したこの水害がなぜ起きたのか等を、子供達の観点で見いだすことをテーマとして取り組みました。日田消防署で事前学習をし、日田市役所で災害対策本部が行う活動について学び、その後被災地を見て回って、直接被害を受けた方々からお話を聞くことができた。今回4、5、6年生、各学年1作品ずつ作成し、4年生のテーマが「日田市大水害 そのときその場所の人たちは」。5年生のテーマは「日田市SOS これまでに経験したことのない大雨」。6年生のテーマは「7・14九州北部豪雨 綿打地区を救った奇跡の言い伝え」ということで、5年生は佳作入選。6年生は消防庁長官賞を受賞しました。

今後の活動目標として、現在、高瀬少年消防クラブは消防職員が指導を全て行っておりますが、今後クラブ数が増加すると現状のままではやっていけなくなり、指導員等を含めた体制づくりを考えていかなければならないと思っております。高瀬少年消防クラブが築き上げた活動を維持し、さらなる飛躍をする活動を実施していきたいと考えております。

## 平成25年度 消防個人年金海外視察の御案内

### 雄大な自然美と美しい都市にふれる旅

#### イタリア・シチリア島を巡る 8日間ツアー

(財)日本消防協会では、消防個人年金事業の一環として、消防個人年金加入者等とその家族を対象とした海外視察を企画しましたのでご案内いたします。

第17回となる今回の海外視察は、イタリア・シチリア島を巡ることにしました。

参加者の皆様が気軽に安心してご参加いただけるように、次の点に配慮した内容となっております。

- (1) 日本消防協会の職員および添乗員が同行いたします。
- (2) ポイントをしっかりとおさえながらも、ゆとりをもった視察行程となっております。
- (3) 宿泊はすべて、4ツ星以上のホテルをご用意いたします。
- (4) 全行程において、行き届いたお食事をご提供いたします。
- (5) 細部にまでおける良心的なサービスをご提供いたします。

#### 1 日時

平成25年12月1日(日)から  
12月8日(日)まで

#### 2 視察先および日程

イタリア(6泊8日)



【アグリジェンド 神殿の谷】

※詳細は日程表をご参照ください。

#### 3 参加費用

お1人様 325,000円

費用には次の料金が含まれています。

- (1) 航空運賃(エコノミークラス)・空港税・燃油サーチャージ・団体旅行傷害保険等
- (2) 宿泊料・食事代等

※宿泊は原則2人1部屋となります。1人部屋を希望される場合は追加料金が必要となります。

#### 4 参加人数

30名程度

※参加希望受付は、平成25年7月末日までとさせていただきますが、定員となり次第締め切らせていただきます。

#### 5 問い合わせ先

下記連絡先まで電話またはFAXにてご連絡ください。旅行業者より資料と申込書をお届けいたします。

#### 【問い合わせ先】

(財)日本消防協会 年金共済部

TEL: 03-3503-3079

FAX: 03-3503-1480



【ローマ トレヴィの泉】

平成25年度 消防個人年金海外視察 イタリア・シチリア島を巡る8日間 日程表

日数	月日(曜日)	都市名	現地時間	交通機関	摘要	食事
1	2013年 12月1日(日)	成田発 ローマ着 ローマ発 パレルモ着	10:00 14:50 16:00 17:10 18:30	AZ783 AZ1769 専用車	空路、ローマ(フィウミチーノ)経由パレルモへ 空路、パレルモへ 到着後、ホテルへ ホテルに到着、その後夕食 [パレルモ泊]	朝:× 昼:機  夕:○
2	12月2日(月)	パレルモ モンレアーレ パレルモ	17:00	専用車	パレルモ市内視察 (エレミティ教会、パラティーノ礼拝堂、大聖堂等) 昼食は名物のアランチーノ(ライスコロッケ) ホテルに帰着 夕食はノルマン風パスタ(ナスとトマトのソース) [パレルモ泊]	朝:○ 昼:○ 夕:○
3	12月3日(火)	パレルモ発 アグリジェンド着	午前 17:00	専用車	アグリジェンドへ向う 昼食は名物のアーモンドソースのパスタ 着後、 <b>神殿の谷</b> 、国立考古学博物館等視察 ホテルに到着 夕食は名物のカジキマグロのグリル [アグリジェンド泊]	朝:○ 昼:○ 夕:○
4	12月4日(水)	アグリジェンド発 タオルミーナ着	午前 17:00	専用車	タオルミーナへ向う 途中、カルタジローネ散策 昼食はシチリア風肉ロール巻 シチリア島随一の陶器街カルタジローネ、 <b>カザーレ別荘</b> <b>内のモザイク壁画のピアッツアルメリーナ</b> 等視察 ホテルに到着 夕食は魚介のミックスフライ [タオルミーナ泊]	朝:○ 昼:○ 夕:○
5	12月5日(木)	タオルミーナ カタールニャ発 ローマ着	09:00 16:00 17:20 19:00	専用車 AZ1712 専用車	市内視察 ギリシャ劇場、4月9日広場、イソラ・ベッラ等 昼食は名物ういのソースのスパゲッティ 空路、ローマ(フィウミチーノ)へ ホテルへ ホテルに帰着 レストランにて夕食※カンツオーネのオプショナルツアー [ローマ泊]	朝:○ 昼:○ 夕:○
6	12月6日(金)	ローマ	09:00 午後	専用車	ローマ市消防本部視察 イタリア有数の日本料理店はま清にて和食 市内視察 トレビの泉、コロッセオ、カラカラ浴場跡、 サンピエトロ大聖堂等 その後、ショッピング ホテルに帰着 マンダリンにて中華料理のさよならディナー [ローマ泊]	朝:○ 昼:○ 夕:○
7	12月7日(土)	ローマ発	12:00 15:00	専用車 AZ784	空港へ 空路、成田へ [機中泊]	朝:○ 昼:× 夕:機
8	12月8日(日)	成田着	11:15		到着後、解散	朝:機

当日程は航空会社、現地の事情等で変更になる場合がありますので予めご諒承の程お願いします。  
AZ:アリタリア航空 太字は世界遺産です。\_\_\_\_はご入場します。

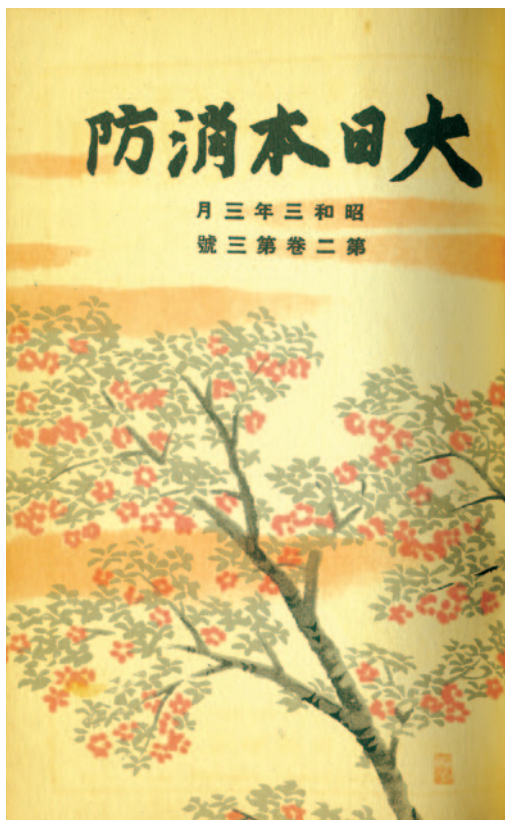


(タオルミーナ 4月9日広場)



## 消防団120年特別企画 「大日本消防」表紙絵

(財)日本消防協会



発行：昭和3年3月

第2巻第3號

題名：「消防精神の象徴」

筆者：横山大観

(よこやまたいかん)

明治9年9月18日生まれ。

昭和12年文化勲章受賞。

代表作に「生々流転」「無我」など。



発行：昭和3年4月

第2巻第4號

題名：「牡丹」

筆者：鏑木清方

(かぶらききよかた)

明治11年8月31日生まれ。

昭和29年文化勲章受賞。

代表作に「一葉女史の墓」「築地明石町」など。

うちの

# 名物団員



山梨県



笛吹市消防団 芦川分団 第4部 副部長

リッキー・リー・デーヴィス

アメリカ合衆国出身のデーヴィスさんは、山や川の美しさや、日本の原風景を思わせる自然環境のすばらしさが気に入って平成8年に現在の笛吹市芦川町へ住み始めました。

現在は、翻訳の仕事をする傍ら、野菜や米作りも行い、農業にとっても精通しています。また、とても多趣味で、最近ではクラシックギターを演奏する時間を楽しんでいるそうです。

消防団へは平成9年に入団。所属する芦川分団第4部の中心的な存在として活躍し、今ではすっかり地域の顔となっています。

群馬県



館林地区消防組合 館林消防団 第4分団1班 副分団長

越澤 勝

平成14年4月に入団された越澤さんは、館林消防団総員248名の中で唯一、団長を始め多くの団員が認め、災害現場到着「一番」を誇る、果敢な消防団魂を持つ、分団員であります。越澤さんは昨年4月に副分団長の拜命を受けると、第4分団1班のリーダーとしての重責に闘志がさらに燃え、忙しい自動車整備業を父親と営みながらも、災害現場

に「越澤あり」、と様々な現場で活躍をしています。

大阪府



豊能町消防団 団長

東浦 満博

本町は大阪の北西部、大阪・京都・兵庫の境界、山間部に位置する自然豊かな地域です。

昭和60年に入団し現在、豊能町消防団長8年目を迎え、常にその職責を自覚して、日々消防知識や技術の向上に研鑽努力を惜まず、何事においても消防業務を優先させ、積極的に職務遂行にあたるとともに、長男も消防団員として消防団活動をされ親子で活躍されています。

普段は米を2ha（甲子園球場の1.5倍）・ハウス34a（1,000坪）の農園を営み、こだわりの米と野菜を生産し「大阪エコ農産物」に認定されるなど土づくり、堆肥づくりも日々研究を重ね安心・安全な農作物を生産されています。



ていても惚れ惚れしてしまいます。そのカッコいい姿をいつまでも魅せてください。

穴水町消防団副団長の二社谷さんは、地元の病院で命の架け橋を担う救急車の運転手をしており、忙しい仕事の合間を縫って、鹿波獅子太鼓の太鼓や銅鑼を叩いています。

鹿波獅子太鼓とは、江戸時代から続く伝統ある鹿波獅子舞に太鼓を組み合わせたもので、その太鼓を叩く姿はとても勇ましく、そして楽しそうで、見



7分団に所属する与儀清太さんは、高校時代にサッカーで全国大会に出場した経験と持ち前の熱心さで積極的に消防団活動に参加し、沖縄県消防操法大会の小型ポンプ操法の部で優勝に貢献するなど皆から頼られる中堅団員です。

看護師の資格を有し、医療現場のプロである与儀さんは、職場では手術室に勤務しており、応急手当の手法を団員に指導するとともに、一人でも多くの市民に普及し、実践してもらいたいという願いを持っています。

多くの観光客が来県する沖縄の県都である那覇市を守る消防団員として、今後も後輩の育成を担ってもらわないといけない存在です。





# 消防団の広場

群馬県

## 「広報イベントで消防団をPR」

高崎市消防団  
団長

田中 宏



高崎市は、これまで3回の市町村合併を経て、自然環境、歴史的遺産、文化、産業など個性豊かな地域特性や多様な地域資源を有する都市となり、また、高崎音楽祭や高崎映画祭といった市民文化活動が盛んに行われるなど活気溢れる街です。

さて、高崎市消防団は、団長以下1,376人、10方面隊、57分団で構成され、市民の安全安心のため災害に備えておりますが、昨今、団員の高齢化やサラリーマン化が進み昼間の消防力の確保が難しくなっていることが否めません。高崎市消防団ではこの現状を少しでも解消するためにはどうすればよいか、ということ大きな課題として捉えています。そのひとつの方策として、「広報イベントによって、多くの方に消防団を知ってもらう」ということがその一助になるのではないかと考え、昨年度から消防本部の広報イベント「ファイヤーフェスタ」に協賛して消防団PR活動を実施しております。

昨年9月1日の防災の日には「学ぼう！防災～見る・知る・体験する～」をテーマに高崎市内の大型家電量販店で、また今年3月2日には春の火災予防運動にあわせて高崎市市民活動センター「ソシアス」でファイヤーフェスタを開催しました。消防音楽隊や社会人チアリーディングチーム、また全国消防イメージキャラクター「消太」くんにも出演してもらうなど、たいへん賑やかな中で消防団PRを行うことができ大盛況となりました。

広報活動は、1回2回の活動ではなく、継続性をもって取り組んでいくことによってはじめて効果が出てくるものだと思います。高崎市消防団では今後もいろいろな場面を捉えて、消防団PR活動の実施に取り組んで参りたいと考えています。



第4回FFS

# 消防団の広場

秋田県

## 「まとい振り」を通した防災意識の高揚について



大館市消防団大館第17分団  
副分団長

羽柴 睦廣



大館市は秋田県の北部に位置し、平成17年6月に大館市・比内町・田代町の1市2町の合併により現在の大館市となりました。

映画にもなりましたが、ハチ公物語の忠犬ハチ公の生誕の地であり、渋谷駅前前のハチ公の銅像のモデルでもあります。

また、日本三大地鶏に数えられ国の天然記念物にも指定されている比内鶏があります。

さて、大館市消防団は団長以下1110名、女性分団を含む40分団で構成され、日夜地域の生命と財産を守るため、災害に備えています。

大館市消防団大館地域分団には昭和26年から続く纏振りがあります。各分団より振り手を選出し纏い隊を結成し、総指揮者を始め指導員4名、振り手48名、半鐘2名の55名で構成されており、出初式には勇壮な演技を行い消防団の心意気を示すのと同時に地域住民の防火意識のより一層の高揚を図っています。

大館の纏振りの型には、祝いの席に行く

三三九度をはじめ、七五三奴振り、秋田奴振り、神田振り、木遣り振りの全5種類があります。

出初式では最初に代表分団による三三九度を、市長他来賓の前で勇壮な演技を披露し、その後24個分団が一斉に纏振りをを行い、一条乱れぬ演技で、団員をはじめ、観客を魅了します。

私は現在、振り手に纏振りの型を指導しております。振り手は各分団から代表として2名選出されますが、経験年数の浅い振り手から、5年以上の熟練された振り手とさまざまです。そのような中で48名の振り手一つにまとめるために、基本動作から振り方を指導し、一条乱れぬ演技ができるように厳しい合同練習を行います。

昨年の出初式では、纏振りの指揮者を務めさせていただき、24本の纏で一条乱れぬ勇壮な演技を披露できたのは、纏隊55名が心を一つにした結果だと思えます。

纏振りをとおして、団員の一致団結と防災意識の高揚を図って、これからも後輩の指導に励み、精励していきたいと思えます。



代表分団による三三九度



纏振りに望む隊員たち



纏振り隊記念写真



隊員全員による一斉纏振り

平成25年度 全国統一防火標語

## 「消すまでは 心の警報 ONのまま」

### 6月の日本消防協会関係行事

6月6日(木) (午後)	消防育英会理事会
6月10日(月) (午後)	消防育英会選考委員会
6月13日(木)～14日(金)	第21回全国女性消防操法大会指導員研修会(横浜市)
6月21日(金) (午前)	消防育英会評議員会

### 編集後記

北は5月なのに雪、南は一足早いプール開きと、今年も妙な天候であったゴールデンウィークも終わり、これから夏に向けまっしぐらという季節となりましたが、皆さんお元気ですか。日本消防協会は5月1日からクールビズの実施となり、今年も少しでも多く節電しようと頑張っております。

さて、NASAの学者が予測しているところによりますと、2013年の世界の平均気温が2010年の過去最高記録を破る可能性が高いと言われておりました。このような異常気象によるものなのか、ゲリラ豪雨や爆弾低気圧が発生することが多くなり、また、日本も含め世界で大きな地震が起きています。まさに最近の災害は忘れないうちにやってきましたが、ともすると、頻繁すぎて悪い意味で災害に慣れてしまわないかと危惧しています。

昔から恐いものとされる「地震・雷・火事・〇〇〇」に加えて大雨や洪水など、やはり災害は恐ろしいものです。災害を目にし、耳にし、感じた時々にもう一度、自分や家族の身の安全について考えていきましょう。

(M・K)

### お詫びと訂正

日本消防2013年3月号掲載「少年消防クラブ指導者研修会を開催」記事の中の写真(33ページ)に対するお名前表記に誤りがございましたので、関係各位の方々に対しまして深くお詫び申し上げます。訂正させていただきます。



正…山内 克也 氏 誤…星野 誠二 氏



正…星野 誠二 氏 誤…山内 克也 氏

### 購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先)

総務部企画担当 03-3503-1481

### 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第五号  
平成二十五年五月五日印刷  
平成二十五年五月十日発行

編集人 川手 晃

発行所 財団法人日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九十六

電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所

東京都文京区湯島三丁目二十一

日本印刷株式会社

電話(3833)六九七一(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

# 「火災共済金は1500倍補償」

## B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで  
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

## C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで  
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金  
※共済への加入にあたり、組合員となっていたためのお出資金が別途必要となります。



### 共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆破・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門2-9-16

日本消防会館6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.nissho.or.jp>

## 消防個人年金

－ 将来の自分の為の積立年金制度です －

消防個人年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防個人年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。